

もくじ

もくじ	1
はじめに	5
DynaBook でやりたいことを探そう！	8

1章 本体の機能

13

1 各部の名前	14
① 前面図	14
② 背面図	16
③ 裏面図	17
2 システムインジケータ	19
3 モードパネルと各ボタン	20
① モードパネル	20
② ワンタッチボタン	22
③ オーディオ／アプリケーションボタン	22
④ 東芝コントロールで設定する	24
4 キーボード	30
① キーボード図	30
② キーシフトインジケータの切り替え	32
③ キーを使った便利な機能	33
5 タッチパッド	37
① タッチパッドを設定するには	37
② タッピング機能	38
③ その他の設定	42
6 ディスプレイ	44
① ディスプレイの設定	44
7 ハードディスクドライブ	50
① ハードディスクドライブに関する表示	50
8 サウンド機能	51
① スピーカの音量を調整する	51
② 音楽／音声の録音レベルを調整する	52
9 マルチドライブ	54
① CD／DVDについて	54

10 スマートメディア	57
① スマートメディア	57
② スマートメディアのセットと取り出し	58
③ スマートメディアを使う前に	59
11 SDメモリカード	61
① SDメモリカードについて	61
② SDメモリカードのセットと取り出し	62
③ SDメモリカードを使う前に	63
12 新着メールをモードパネルで確認する	65
① 新着メールチェックの設定をする	65
② 新着メールを確認する	72
③ 新着メールチェックを停止する	72
13 内蔵モデムについて	74
① 海外でインターネットに接続する	74
14 セキュリティロック	77

2章 バッテリ駆動

79

1 バッテリについて	80
① バッテリ充電量を確認する	81
② バッテリを充電する	83
③ バッテリバックを交換する	86
2 省電力の設定をする	88
① 省電力ユーティリティ	88
3 パソコンの使用を中断する／電源を切る	94
① スタンバイ	94
② 休止状態	95
③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する	96

3章 音楽と映像

99

1 音楽CDを聴く	100
① Windowsを起動して音楽CDを聴く	100
② Windowsを起動しないで音楽CDを聴く	104

2 音楽ファイルを聴く	106
① 音楽再生用アプリケーションを起動する	106
② LIVE MEDIA PLAYER で再生する	107
③ Windows Media Player でファイルを再生する	110
3 オリジナル音楽CDを作る	114
① Drag'n Drop CD を使うために	114
② Drag'n Drop CD を使う	115
4 オリジナルMDを作る	118
5 DVD-Video を観る	119
① InterVideo WinDVD を起動する	119
② InterVideo WinDVD を使う	121
6 デジタルカメラの写真を編集／整理する	125
① デジカメ Walker を使う	125
7 動画を編集する	128
① MotionDV STUDIO を使う	128
② デジタルビデオカメラを接続する	129

4章 周辺機器の接続

131

1 周辺機器について	132
① 周辺機器を使う前に	133
2 フロッピーディスクドライブを接続する	134
① フロッピーディスクドライブ	134
② フロッピーディスク	135
③ フロッピーディスクを使う前に	136
3 PC カードを接続する	140
① PC カードを使う前に	140
② PC カードを使う	141
4 USB 対応機器を接続する	143
5 テレビを接続する	145
6 CRT ディスプレイを接続する	149
7 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	150
8 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する	152

9 その他の機器を接続する	155
① マイクロホン	155
② ヘッドホン	156
③ オーディオ機器	157
10 LANへ接続する	159
11 メモリを増設する	162

5章 アプリケーションを追加する／削除する 167

1 アプリケーションを追加（インストール）する	168
2 アプリケーションを削除（アンインストール）する	169

6章 システム環境の変更 171

1 システム環境の変更とは	172
2 東芝HWセットアップを使う	173
① 東芝HWセットアップの起動と使用	173

付録 179

1 アプリケーション一覧	180
2 本製品の仕様	182
3 各インターフェースの仕様	186
4 技術基準適合について	190
さくいん	202

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。内容をよく読んでから使用してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

⚠ 警告	“誤った取り扱いをすると人が死亡する、または重傷を負う可能性があること”を示します。
⚠ 注意	“誤った取り扱いをすると人が傷害 ^{※1} を負う可能性、または物的損害 ^{※2} のみが発生する可能性があること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知つておくと便利な内容を示します。
参照 ➔	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 …「」 他のマニュアルへの参照の場合 …「」 サイバーサポートへの参照の場合 …《》 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

※ 1 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要しない、けが・やけど・感電などをさします。

※ 2 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかる拡大損害を示します。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムはWindows XPです。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP

Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME スタンダード 2002 を示します。

サイバーサポート

CyberSupport for TOSHIBA を示します。

記載について

- ・インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Office ロゴ、Outlook、Bookshelf は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Bookshelf Basicは、次の書籍を基に制作されました。『新英和中辞典』第6版 (c) 研究社 1967,1994,1998、『新和英中辞典』 第4版 (c) 研究社 1993, 1995,1998、『新明解国語辞典』 第5版 (c) 三省堂 1972,1974,1981,1989,1997
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの商標です。
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・ LaLaVoice、The 翻訳、The 翻訳インターネットは（株）東芝の商標または登録商標です。
- ・ Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat は Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の商標です。
- ・ Drag' n Drop CD はイージーシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの商標です。
- ・ Easy Systems はイージーシステムズジャパン株式会社の登録商標です。
- ・ DigiOn は株式会社デジオンの登録商標です。
- ・ VERITAS は米国 VERITAS 社の登録商標です。
- ・ 駅すばあとは株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- ・ プロアトラスは株式会社アルプス社および株式会社アルプス出版社の登録商標です。
- ・ Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、Live Update は Symantec Corporation の登録商標です。
(c) 2002 Symantec Corporation. All Rights Reserved.
- ・ infoPepper は東芝情報システム株式会社の登録商標です。
- ・ アメリカ・オンラインおよび AOL は AOL の登録商標です。
- ・ BIGLOBE は日本電気株式会社の商標です。
- ・ DION は KDDI 株式会社の登録商標です。
- ・ OCN は NTT コミュニケーションズ株式会社の商標です。
- ・ @nifty は、ニフティ株式会社の商標です。
- ・ ODN は日本テレコム株式会社の商標です。

・東京電話インターネットは東京通信ネットワーク株式会社の登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

ドルビー商標について

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

Dolby、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上の配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守の上、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ず読んでください。本製品の電源を入れた状態で、次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックする
- ② [ヘルプトピックを選びます] の [リリース情報] をクリックする
- ③ 左画面の [リリース情報] をクリックする

お願い

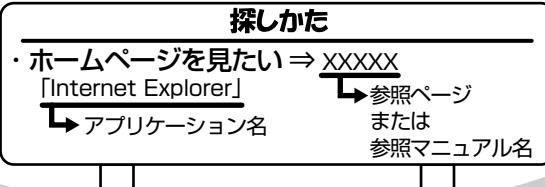
- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）は、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

使用する前に本体同梱の「お客様登録カード」に必要事項を記入のうえ、返送してください。「保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

DynaBookでやいたいことを探そう！



Welcome!



インターネットを楽しむ

- ・プロバイダと契約したい ⇒ 『まずはこれから』
「簡単インターネット」
- ・ホームページを見たい ⇒ 『基本をマスター 2章 インターネットを楽しもう』
「Internet Explorer」
- ・英語のホームページを日本語に翻訳したい ⇒ 《サイバーサポート》
「インターネット翻訳 英日」
- ・日本語のホームページを英語に翻訳したい ⇒ 《サイバーサポート》
「インターネット翻訳 日英」
- ・海外でインターネットに接続したい ⇒ P.74
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」



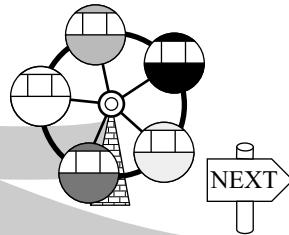
メールを使う



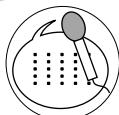
- ・メールとスケジュールをまとめて管理したい ⇒ 《サイバーサポート》
「Microsoft Outlook」
- ・メールをしたい ⇒ 『基本をマスター 3章 電子メールを楽しもう』
「Microsoft Outlook」
- ・自動メールチェックしたい ⇒ P.65
「新着メールチェックのスケジュール設定」



音楽を楽しむ



- ・音楽CDやファイル、ムービーを再生したい ⇒ P.103
「Windows Media Player」
- ・オリジナル音楽CDをつくりたい ⇒ P.114
「Drag'n Drop CD」
- ・音楽CDやファイルを再生したい ⇒ P.100
「LIVE MEDIA PLAYER」



音声



- ・パソコンを音声で操作したい
パソコンに文章を読み上げさせたい
「LaLaVoice」 ⇒ 《サイバーサポート》



画像 / 映像を楽しむ

- ・デジタルカメラの写真を取り込んで編集したい ⇒ P.126
「デジカメWalker (Ulead iPhoto Express)」
- ・デジタルビデオカメラの映像を取り込んで編集したい ⇒ P.129
「MotionDV STUDIO」
- ・DVDを楽しみたい ⇒ P.120
「InterVideo WinDVD」



文書 / 表を作る

- ・案内状や報告書を作りたい ⇒ 《サイバーサポート》
「Microsoft Word」
- ・表やグラフを作りたい ⇒ 《サイバーサポート》
「Microsoft Excel」



便利なソフト

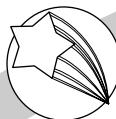
- ・PDFファイルを見たい ⇒ 《サイバーサポート》
「Acrobat Reader」
- ・地図で場所を調べたい ⇒ 《サイバーサポート》
「プロアトラス2002 for TOSHIBA」
- ・電車の経路や時刻表、運賃を調べたい ⇒ 《サイバーサポート》
「駅すぱあと」
- ・年賀状や暑中見舞いを作りたい ⇒ 《サイバーサポート》
「筆ぐるめ」
- ・国語/英和/和英辞典を使いたい ⇒ 《サイバーサポート》
「Microsoft Bookshelf Basic」





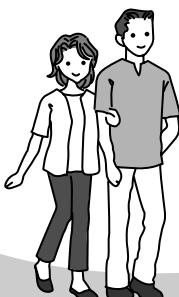
パソコンを守る

- ・ウイルスのチェックや駆除をしたい
「Norton AntiVirus 2002」⇒『困ったときは 2章』
- ・CD-R、CD-RWにバックアップを取りたい
「Drag'n Drop CD」⇒『困ったときは 2章』



パソコンの設定

- ・パソコンの状態をチェックしたい
パソコンの基本情報を知りたい⇒『困ったときは1章』
「東芝PC 診断ツール」
- ・ハードウェアの設定を変えたい ⇒P.173
「東芝 HW セットアップ」
- ・ワンタッチボタンの設定を変えたい ⇒P.24
「東芝コントロール」
- ・キー操作でアプリケーションを起動したい ⇒《サイバーサポート》
「Fn-esse」
- ・バッテリ駆動のときの省電力設定をしたい ⇒P.88
「東芝省電力ユーティリティ」



1 章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。各部の手入れについても確認してください。

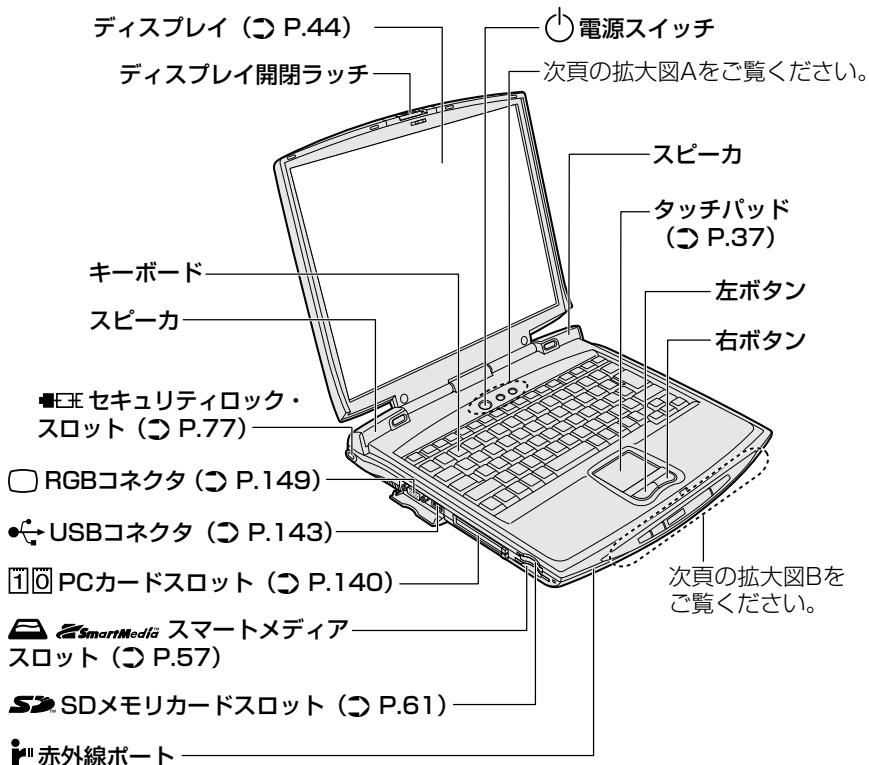
1	各部の名前	14
2	システムインジケータ	19
3	モードパネルと各ボタン	20
4	キーボード	30
5	タッチパッド	37
6	ディスプレイ	44
7	ハードディスクドライブ	50
8	サウンド機能	51
9	マルチドライブ	54
10	スマートメディア	57
11	SDメモリカード	61
12	新着メールをモードパネルで確認する	65
13	内蔵モデムについて	74
14	セキュリティロック	77

1 各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。

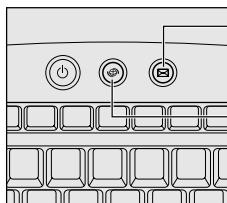
それぞれについての詳しい説明については、各参照ページを確認してください。

1 前面図



赤外線ポートを使って、IrDA方式の赤外線ポートを持つ他の機器と通信が行えます。
赤外線通信を行う機器は、同じ通信用アプリケーションを使用してください。

【拡大図 A】



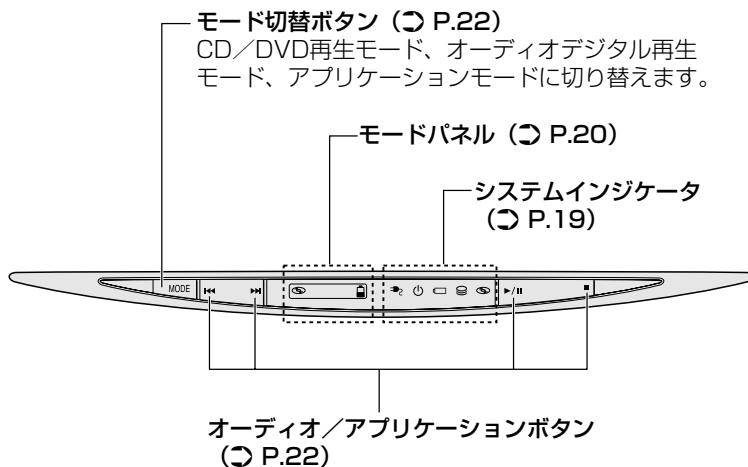
■ メールボタン (P.22)

ボタンを押すと、メールソフトが起動します。

■ インターネットボタン (P.22)

ボタンを押すと、インターネットブラウザが起動します。

【拡大図 B】



モード切替ボタン (P.22)

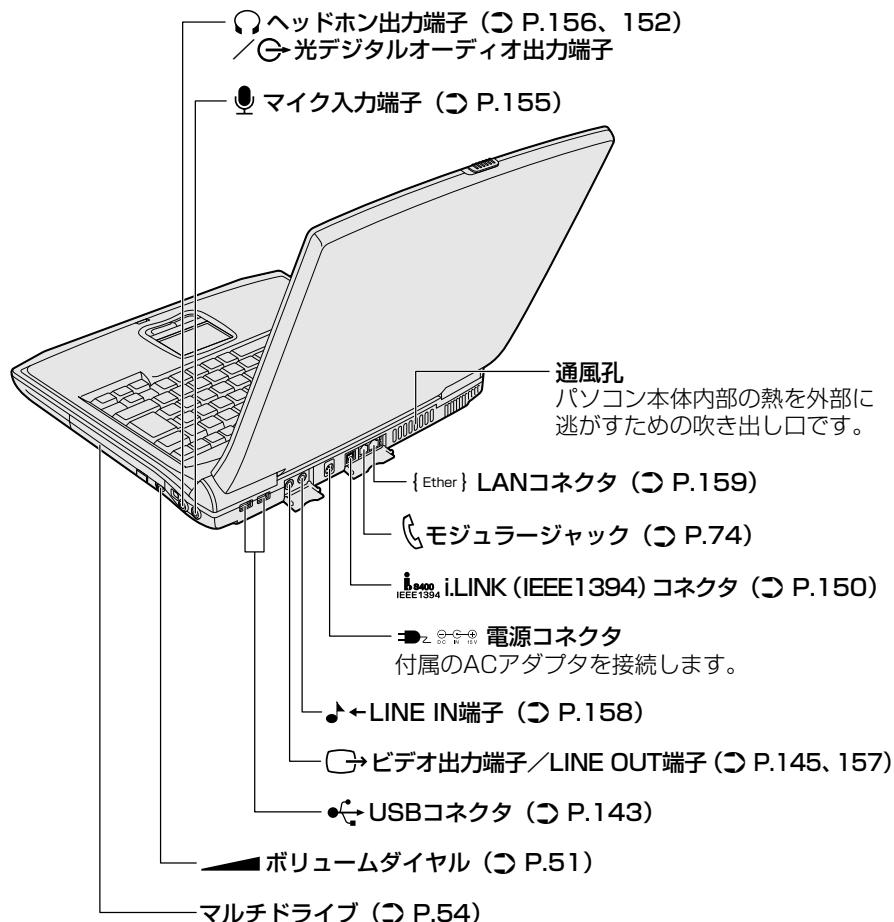
CD/DVD再生モード、オーディオデジタル再生モード、アプリケーションモードに切り替えます。

モードパネル (P.20)

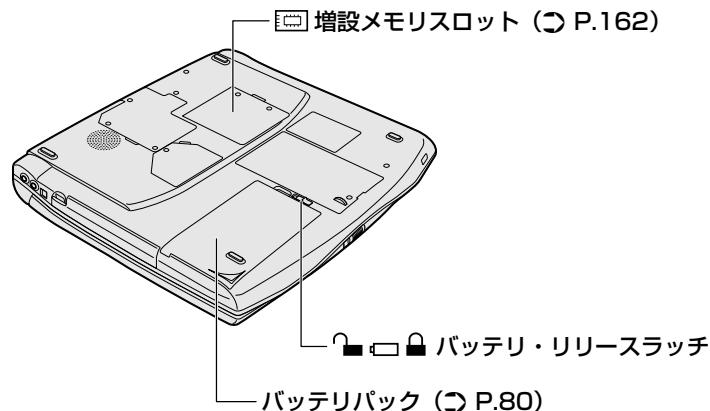
システムインジケータ (P.19)

オーディオ／アプリケーションボタン (P.22)

2 背面図



3 裏面図



⚠ 注意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

パソコン本体 / 電源コードの取り扱いと手入れ

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度5～35℃、湿度20～80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にほこりを拭き取ってください。

【仕様について】

電源コードの仕様

本製品に同梱されている電源コードは、アメリカ合衆国、カナダ、日本の規格に準拠しています。

その他の地域で使用する場合は、別途電源コードを購入してください。

使用できる電圧（AC）は次のとおりです。

アメリカ合衆国 : 125V

カナダ : 125V

日本 : 100V

日本では必ずAC100Vのコンセントで使用してください。

※取得規格は、アメリカ合衆国：UL規格、カナダ：CSA、日本：電気用品安全法です。

ACアダプタの仕様

本製品に同梱されているACアダプタは、海外でも使用できます。

ACアダプタの仕様は次のとおりです。

入力 : AC100V～240V、1.2A～0.6A、50/60Hz

出力 : 15V、5A

2 システムインジケータ

システムインジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。



【システムインジケータ】

	DC IN LED	電源コードの接続 参照 『まずはこれから』
	Power LED	電源の状態 参照 『まずはこれから』
	Battery LED	バッテリの状態 参照 P.81
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている 参照 P.50
	CD-ROM LED	マルチドライブにアクセスしている 参照 P.55

3 モードパネルと各ボタン

モードパネルの表示と、ワンタッチボタンやオーディオ／アプリケーションボタンについて説明します。

1 モードパネル

モードパネルは、パソコンの状態をアイコンで表示したり、時計、「LIVE MEDIA PLAYER」でのCDの再生時間、新着メール数などを文字列で表示したりできます。



1 モードパネルの点灯

モードパネルは、次のときに、青色に点灯します。

- 電源スイッチを押したとき
- モード切替ボタン、オーディオ／アプリケーションボタンを操作したとき

2 モードパネルに表示されるアイコン

モードパネルに表示されるアイコンの表示状況によって、パソコン本体がどのような動作をしているか知ることができます。

次のアイコンはパソコン本体の動作状況を表しています。

	CD/DVD再生アイコン	CD/DVD再生モード 参照 P.23、101、104、121
	オーディオデジタル再生アイコン	オーディオデジタル再生モード 参照 P.23、106
	アプリケーション起動アイコン	アプリケーションモード 参照 P.23
	オーディオ／アプリケーションボタンロック機能アイコン	オーディオ／アプリケーションボタンがロックされている 参照 P.23
	バッテリ残量アイコン	バッテリの状態 参照 P.81

3 モードパネルに表示される文字列

モードパネルには、半角のカタカナと英数字の文字列が表示できます。

表示される内容は次のとおりです。

モードパネルの表示	内容
時計	<p>パソコンが次の状態のときに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っているとき ・スタンバイ機能を実行しているとき ・休止状態のとき ・電源が切れているとき <p>「LIVE MEDIA PLAYER」の起動中は、音楽 CD や音楽ファイルの情報が表示されます。</p>
新着メール数	<p>パソコンが次の状態のときに新着メール数が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っていて、メールアプリケーションを起動していないとき ・スタンバイ機能を実行しているとき ・休止状態のとき ・電源が切れているとき
登録した文字列	<p>APPLICATIONを起動していないときに表示される文字列です。</p> <p>パソコンが次の状態のときに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っているとき ・スタンバイ機能を実行しているとき ・休止状態のとき ・電源が切れているとき <p>「東芝コントロール」であらかじめ半角 32 文字以内のカタカナと英数字の文字列を登録できます。</p>
メッセージ	<p>システムのメッセージやアプリケーションのメッセージが表示されます。例えば、電源を入れたときに、「Welcome」と表示されます。パソコンの電源が入っているときに表示されます。</p>

参照 ➤ 文字列の登録について 「本節 ④」

2) ワンタッチボタン

本製品には、簡単にインターネットブラウザソフトやメールソフトを起動することができる、2つのワンタッチボタンがあります。

各ボタンを押すと設定されているアプリケーションが起動します。

起動するアプリケーションは、「東芝コントロール」で自由に変更できます。購入時に各ボタンに設定されているアプリケーションは次のとおりです。

- インターネットボタン Internet Explorer
- メールボタン Microsoft Outlook

【パソコン本体の電源が入っていないとき】

電源が入り、Windows 起動後、設定されているアプリケーションが起動します。

【スタンバイ状態／休止状態のとき】

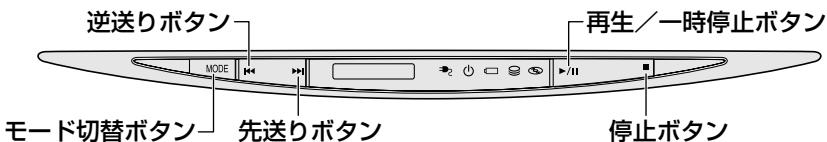
スタンバイ状態／休止状態を実行する直前の状態が再現されてから、設定されているアプリケーションが起動します。

参照 ➔ アプリケーションの設定について 「本節 ④」

3) オーディオ／アプリケーションボタン

モード切替ボタンで、CD/DVD 再生モード（）、オーディオデジタル再生モード（）、アプリケーションモード（）にしているときに、オーディオ／アプリケーションボタンで操作できます。

ただし、オーディオ／アプリケーションボタンで操作するアプリケーションとモードの状態（モードパネルのアイコン表示）が対応していないと操作できません。



モード切替ボタンを押すごとに、モードが切り替わります。

モードの状態は、モードパネルにアイコンで表示されます。

- CD／DVD 再生モード (再生)

CD／DVD を再生できます。 参照 詳細について「3章 1、5」

- オーディオデジタル再生モード (音楽)

音楽ファイルを再生できます。 参照 詳細について「3章 2」

- アプリケーションモード (アプリケーション)

登録したアプリケーションを起動できます。 参照 詳細について「本節 ④」

各モード時に、オーディオ／アプリケーションボタンはそれぞれ次の機能を持っています。

ボタン	CD/DVD 再生モード (再生)	オーディオデジタル再生モード (音楽)	アプリケーションモード (アプリケーション)
◀◀	逆送りボタン		アプリケーションボタン 1
▶▶	先送りボタン		アプリケーションボタン 2
▶/■	再生／一時停止ボタン		アプリケーションボタン 3
■	停止ボタン		アプリケーションボタン 4

オーディオ／アプリケーションボタンロック機能

本製品を持ち運ぶ場合、誤ってオーディオ／アプリケーションボタンが押されると、アプリケーションが起動してしまう可能性があります。

そこで、オーディオ／アプリケーションボタンを一時的に機能しないようにする「オーディオ／アプリケーションボタンロック機能」があります。

なお、オーディオ／アプリケーションボタンロック機能はパソコンの電源が切れている場合のみ使用できます。

オーディオ／アプリケーションボタンロック機能を有効にするには、次のように操作します。

1 モード切替ボタンを4秒以上押す

オーディオ／アプリケーションボタンロック機能を解除する場合も、同様にモード切替ボタンを4秒以上押してください。

また、電源スイッチを押してパソコンの電源を入れると、オーディオ／アプリケーションボタンロック機能は解除されます。

オーディオ／アプリケーションボタンロック機能の使用中は、モードパネルにオーディオ／アプリケーションボタンロック機能アイコン (🔒) が表示されます。

4 東芝コントロールで設定する

「東芝コントロール」でモードパネルやボタンの設定ができます。設定できる内容は、次のとおりです。

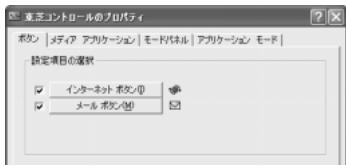
- アプリケーションが起動されていないときに、モードパネルに表示される文字列
- 新着メールチェック機能を使用するときのモードパネルの表示
- インターネットボタン、メールボタンを使用して起動するアプリケーションの変更
- モード切替ボタンを使用して起動するアプリケーションの変更や追加

1 起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [東芝コントロール] をクリックする

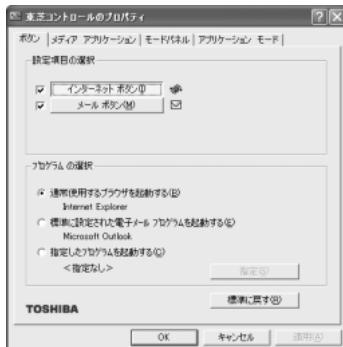
2 [ボタン]タブ

インターネットボタン、メールボタンを押したときに起動するアプリケーションを変更できます。

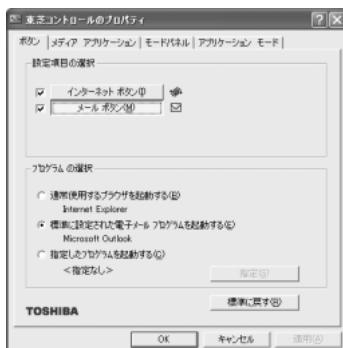


- 1 [インターネットボタン] または [メールボタン] ボタンをクリックする
[プログラムの選択] が表示されます。

【[インターネットボタン] ボタンをクリックした場合】



【[メールボタン] ボタンをクリックした場合】



2 アプリケーションを選択して、[OK] ボタンをクリックする

3 [メディアアプリケーション]タブ

モード切替ボタンで、CD／DVD 再生モード（）、オーディオデジタル再生モード（）を選択したときに起動するアプリケーションが変更できます。



- 1 [プレーヤの選択] で、変更したモードのボタンをクリックし、表示される一覧からアプリケーションを選択する
選択できるのは次のアプリケーションです。

オーディオ／ビデオコントロール	LIVE MEDIA PLAYER Windows Media Player
CD オーディオコントロール	LIVE MEDIA PLAYER Windows Media Player
DVD ビデオコントロール	WinDVD

- 2 [OK] ボタンをクリックする

4 [モードパネル]タブ

モードパネルの表示を設定できます。



1 [表示モード] で、モードパネルに表示したい内容を選択する

次の設定を選択できます。[オナストリング表示] を選択する場合は、登録したい文字列を入力してください。

時計表示（24H）	時計を表示します（24時間）。
時計表示（12H）	時計を表示します（12時間、AM／PM）。
オナストリング表示	登録した文字列を表示します。 表示できる文字列は半角のみ、32文字以内のカタカナおよび英数字です。

2 [OK] ボタンをクリックする

時計表示とオナストリング表示では、オナストリング表示が優先されます。

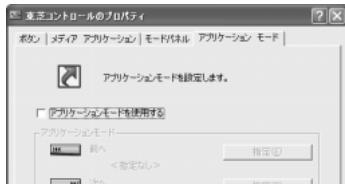
[新着メール情報を表示する] をチェックすると、新着メールチェックを行い、新着メールがある場合はモードパネルに新着メール数が表示されます。[新着メール情報を表示する] をチェックして [設定] ボタンをクリックすると、[新着メールチェックのスケジュール設定] 画面が表示されます。

→ 参照 新着メールチェックについて「本章 12」

5 [アプリケーション]タブ

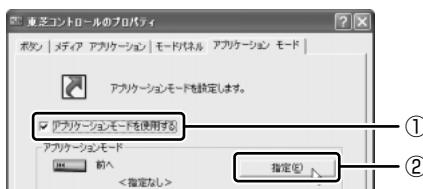
モード切替ボタンでアプリケーションモード（□）を使用するかどうかを設定します。また、アプリケーションモード（□）時に起動するアプリケーションを設定できます。

ここでは、アプリケーションボタン1に「ペイント」を設定する例で変更方法を説明します。



- [アプリケーションモードを使用する] をチェックし①、[アプリケーションモード] で設定を行うアプリケーションボタンの [指定] ボタンをクリックする②

[指定] 画面が表示されます。



- [アプリケーション] ボタンをクリックする
[アプリケーションエクスプローラ] 画面が表示されます。
- [フォルダ] の [プログラム] をダブルクリックする



[プログラム] フォルダの内容が表示されます。

4 [アクセサリ] をクリックしてから① [アプリケーション] の [ペイント] アイコン () をクリックし②、[OK] ボタンをクリックする

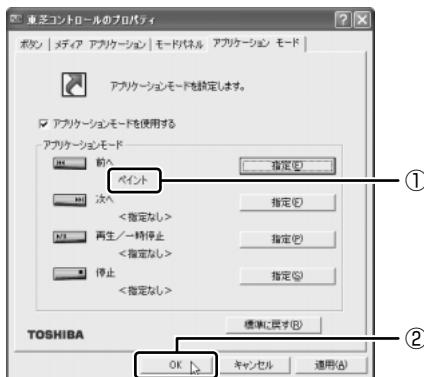


[指定] 画面に戻ります。

5 [アプリケーション名] にペイントが設定されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする

[東芝コントロールのプロパティ] 画面に戻ります。

6 設定したアプリケーションボタンの下に「ペイント」と表示されていることを確認し①、[OK] ボタンをクリックする②



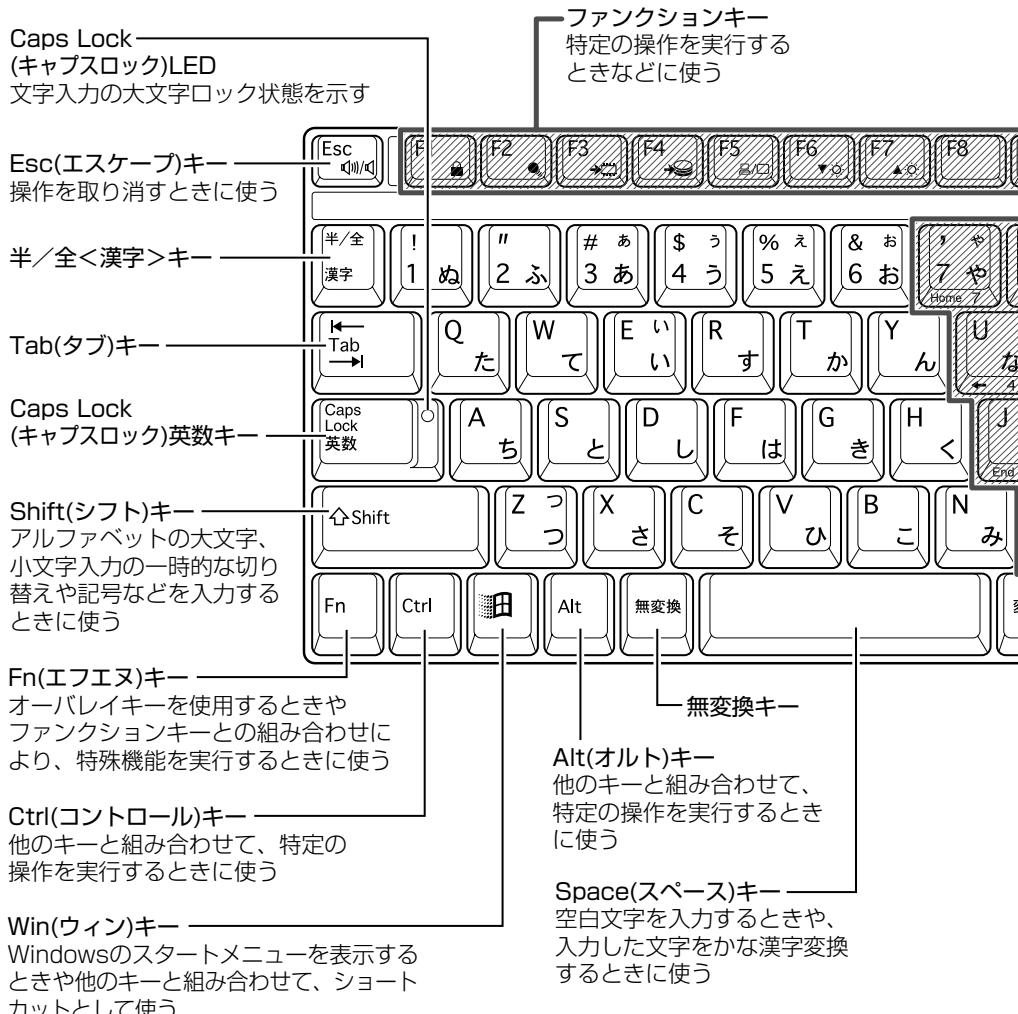
アプリケーションボタンにペイントが設定されます。

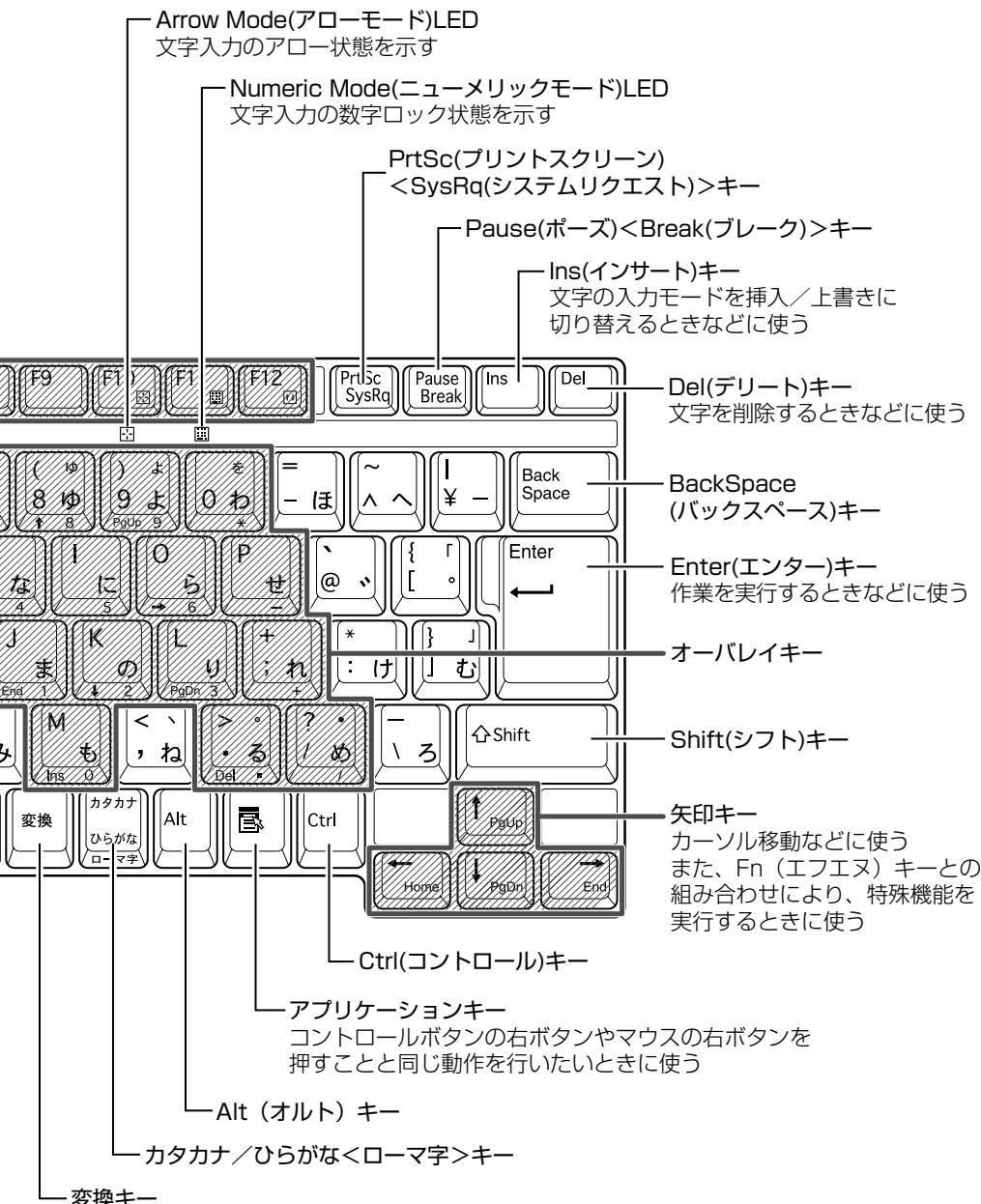
購入時の設定に戻す場合は、[東芝コントロールのプロパティ] 画面で [標準に戻す] ボタンをクリックしてください。

4 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図





2 キーシフトインジケータの切り替え

キーシフトインジケータは、どんな文字が入力できる状態かを示します。

各インジケータの役割と切り替え方法は、次の表のようになっています。それぞれの状態がオンになっているとき、LEDが点灯します。その場合、他の2つは解除して消灯してください。

【キーシフトインジケータ】

LED	切り替えキー	文字入力の状態
Caps Lock LED	(Shift)+(Caps Lock 英数)	大文字ロック状態 文字キーで英字の大文字が入力できます。
Arrow Mode LED	(Fn)+(F10)	アロー状態 オーバレイキーで、キーの前面左側に印刷されたカーソル制御ができます。
Numeric Mode LED	(Fn)+(F11)	数字ロック状態 オーバレイキーで、キーの前面右側に印刷された数字などの文字が入力できます。

それぞれの文字入力状態を解除するには、切り替えキーをもう1度押します。

3 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

【**(Fn)**キーを使った特殊機能キー】

キー	内容
(Fn) + (Esc) 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度 (Fn) + (Esc) キーを押します。
(Fn) + (F1) 〈インスタント セキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 パスワードによる保護を設定（[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで、[パスワードによる保護] または [再開時にようこと画面に戻る] をチェック）しておくと、セキュリティを強化できます。解除するには、次の操作を行ってください。 ① [Shift] キーや [Ctrl] キーを押す、またはタッチパッドを操作する ② ユーザが複数の場合はユーザ名をクリックする ③ パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、 [Enter] キーを押す パスワードによる保護を設定していない場合は、 [Shift] キーや [Ctrl] キーを押す、またはタッチパッドを操作すると解除できます。
(Fn) + (F2) 〈省電力モードの設定〉	(Fn) + (F2) キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 (Fn) キーを押したまま、 (F2) キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。
(Fn) + (F3) 〈スタンバイ機能の実行〉	省電力モードが切り替わります。 (Fn) + (F3) キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックするとスタンバイ機能が実行されます。
(Fn) + (F4) 〈休止状態の実行〉	(Fn) + (F4) キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックすると、休止状態が実行されます。

キー	内容
(Fn)+(F5) 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 詳細について 参照▶「4章 5」
(Fn)+(F6) 〈ディスプレイの輝度を下げる〉	(Fn) キーを押したまま、 (F6) キーを押すたびに画面の輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F7) 〈ディスプレイの輝度を上げる〉	(Fn) キーを押したまま、 (F7) キーを押すたびに画面の輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F10) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます（アロー状態）。 アロー状態を解除するには、もう1度 (Fn)+(F10) キーを押します。
(Fn)+(F11) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます（数字ロック状態）。 数字ロック状態を解除するには、もう1度 (Fn)+(F11) キーを押します。 アプリケーション（Microsoft Excelなど）によっては異なる場合があります。
(Fn)+(F12) 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで ↑↓←→ キーを画面スクロールとして使用できます。 ロック状態を解除するには、もう1度 (Fn)+(F12) キーを押します。
(Fn)+① 〈PgUp (ページアップ)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 ① キーを押すと、前のページに移動できます。
(Fn)+② 〈PgDn (ページダウン)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 ② キーを押すと、次のページに移動できます。
(Fn)+③ 〈Home (ホーム)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 ③ キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
(Fn)+④ 〈End (エンド)〉	一般的なアプリケーションで、 (Fn) キーを押したまま、 ④ キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。

【キーを使ったショートカットキー】

キー	操作
+	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
+	すべてをアイコン化する
+ +	すべてのアイコン化を元に戻す
+	『ヘルプとサポート』を起動する
+	[マイコンピュータ] 画面を表示する
+	ファイルまたはフォルダを検索する
+ +	他のコンピュータを検索する
+	タスクバーのボタンを順番に切り替える
+	[システムのプロパティ] 画面を表示する

【特殊機能キー】

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	+ +	[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー		現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	+	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、電源を切り、ACアダプタとバッテリパックを取りはずして、ただちに購入店、または保守サービスに点検を依頼してください。

5 タッチパッド

タッチパッドを、使いやすく設定できます。

1) タッチパッドを設定するには

タッチパッドやポインタの設定は、[マウスのプロパティ] で行います。

1 [マウスのプロパティ] の起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。



3 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする

各機能の設定については、本節の以降の説明を参照してください。
[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

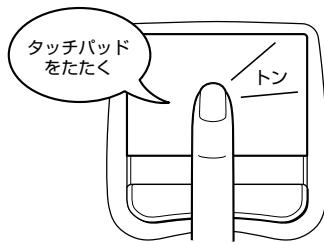
2 タッピング機能

タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

1 タッピングの方法

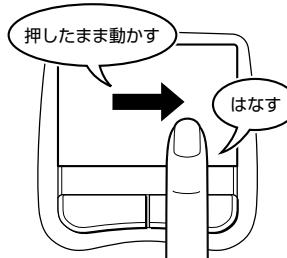
【クリック / ダブルクリック】

タッチパッドを1回軽くとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



【ドラッグアンドドロップ】

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。



2 タッピング機能を設定する

タッピングのいろいろな設定は、[タッチ] タブでできます。[タッチ] タブで設定できる機能は、次のようになっています。



複数回タップ	目的に合わせて項目をチェックする（ <input checked="" type="checkbox"/> ）と、タッピング機能を使用できます。 [タップによりクリック] を選ぶと、タッピングでクリックとダブルクリックができます。[タップしてドラッグ] を選ぶと、タッピングでドラッグすることができます。[ドラッグロック] を選ぶと、タッピングでドラッグしたときに、指を離してもドラッグ状態を保つことができます。
タッチ感度	タッチパッドが反応する感度をスライダーバーで調節できます。
パームチェック	キーボードから文字を入力しているときにあやまってタッチパッドに触れてしまい、意図しない場所にポインタが移動したりクリックしてしまうことを防ぎます。
このデバイスを無効にする	選択したデバイスを無効にします。

3 エッジモーション機能を使う

[エッジモーション] タブで設定します。

エッジモーション機能を設定すると、ポインタを動かしている途中で指がタッチパッドの端にきてしまったとき、タッチパッドから指をはなすまで同じ方向にポインタを動かし続けることができます。

目的に合わせて項目をチェック（）してください。



ドラッグ時	ドラッグしているときにエッジモーション機能を使用できます。
常時	常にエッジモーション機能を使用できます。
スクロール時	スクロール時にエッジモーション機能を使用できます。
触圧でエッジモーション速度を制御	チェックする (<input checked="" type="checkbox"/>) と、タッチパッドを押す指の強さに反応して、エッジモーション機能でポインタが動き続ける速度が速くなります。 速度を一定に設定したい場合はチェックをはずし、スライダーバーで速度を調節してください。

4 スクロール機能を使う

[スクロール] タブで設定します。

タッチパッドの右端、下端に合わせて上下または左右に動かしたとき、スクロール機能を使用できます。



選択したアイテムをスクロール	選択した画面やスクロールバーをスクロールできます。
ポインタで示したアイテムをスクロール	ポインタで示した画面やスクロールバーをスクロールできます。
惰性を利用	チェックする (☑) と、スクロール中にタッチパッドから指をはなしても、スクロールし続けることができます。スクロールを止めるには、指をタッチパッドの上に置いてください。
練習	クリックすると、タッチパッドの練習ができます。
スクロール速度	スクロールする速度をスライダーバーで調節できます。

5 タップゾーン機能を使う

[タップゾーン] タブで設定します。

タッチパッドの右上、右下、左上、左下をタッピングしたときの動作を設定できます。



[タップゾーン機能を使用する] をチェックする (☑) と、タップゾーン機能が使用できます。[コーナータップ時の動作を選択] の、右上、右下、左上、左下のメニュー欄で ▼ ボタンをクリックして、表示される一覧から設定したい機能を選択してください。

3) その他の設定

[マウスのプロパティ] ではタッピングだけではなく、ボタンなどの設定もできます。

1 ポインタや通知領域の設定を変更する

[その他の機能] タブで設定します。



ウィンドウの境界線上で停止	ポインタがアクティブウィンドウの内側だけで動くように設定できます。一度指をはなすと、ウィンドウの外側へ移動できます。
スローモーションキー	指定したキーを押しながらポインタを動かすと、ポインタの速度が遅くなるように設定できます。
ポインタ制約キー	ポインタを水平方向または垂直方向にのみ動くように設定できます。
トレイアイコン	通知領域に表示するアイコンに、タッチパッド上の指の動きを表示するかどうかを選択できます。
ポインタのリフレッシュ速度	ポインタの動作の滑らかさを設定できます。

2 ボタンの設定を変更する

[ボタンの動作] タブで設定します。

タッチパッドの右ボタン、左ボタンを押したときの動作を変更できます。



ボタンの動作選択

[右ボタン] または [左ボタン] のボタンをクリックして、表示される一覧から設定したい動作を選択します。

役立つ
操作集

ポインタの形や速度を変える

[マウスのプロパティ] では、ポインタの形や速さなどを変えることができます。

[ポインタ] タブでは形を、[ポインタオプション] タブでは速さとポインタを動かしたときの軌跡などを設定できます。



ヘルプの起動方法

1 [マウスのプロパティ] 画面を表示し、画面右上の をクリックする
マウスポインタが に変わります。

2 画面上の知りたい場所をクリックする
説明文がポップアップで表示されます。

6 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1400 × 1050 ドット）が内蔵されています。ドットは点の数を表します。

テレビと同じようにプラウン管を発光させて表示する、CRT ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 CRT ディスプレイの接続について「4 章 6」

表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られていますが、ごく一部に非点灯、常時点灯などの表示が存在することがあります。故障ではありませんので、あらかじめ了承してください。

1) ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

2048 × 1536 ドット	1,677 万色
1920 × 1440 ドット	1,677 万色
1600 × 1200 ドット	1,677 万色
1400 × 1050 ドット	1,677 万色
1280 × 1024 ドット	1,677 万色
1024 × 768 ドット	1,677 万色
800 × 600 ドット	1,677 万色

1600 × 1200 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

1,677 万色はディザリング表示です。

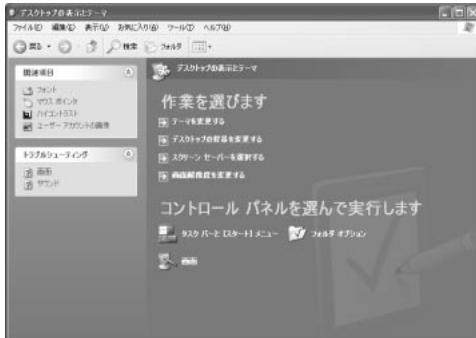
ディザリングとは、1ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

2 デスクトップ表示を変える

デスクトップのデザインやスクリーンセーバなどを、[コントロールパネル] の [デスクトップの表示とテーマ] 画面で変更できます。

- [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリックする

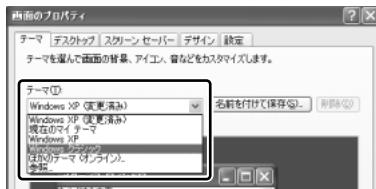
[デスクトップの表示とテーマ] 画面が表示されます。



デスクトップのテーマを変える

テーマを選んで画面の背景、アイコン、音などを変更できます。

- [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [テーマを変更する] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- [テーマ] タブの [テーマ] で ▾ ボタンをクリックし、目的のテーマを選択する



画面は、[Windows クラシック] を選択する場合の表示例です。

- [OK] ボタンをクリックする

壁紙を変える

デスクトップの壁紙（背景）を、Windowsに用意されているイラストや模様に変更することができます。ファイルの場所を指定すると、好きなイラストに変更できます。

1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [デスクトップの背景を変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [デスクトップ] タブの [背景] で、目的の画像を選択する



パソコンの画面の中にプレビューが表示されます。
画面は [草原] を選択する場合の表示例です。

- 指定できる画像ファイル

bmp、gif、jpeg、html ファイルなどが使用できます。

- 画像の位置を指定する

画像ファイルの種類によっては、デスクトップに対して、画像の表示位置を指定できます。

[表示位置] で [中央に表示]、[並べて表示]、[拡大して表示] から選択します。

3 [OK] ボタンをクリックする

スクリーンセーバを使う

好みのスクリーンセーバを選択し、スクリーンセーバを表示させるまでの時間を設定できます。

1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [スクリーンセーバーを選択する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [スクリーンセーバー] タブの [スクリーンセーバー] で ボタンをクリックし、目的のスクリーンセーバを選択する



画面は [Windows XP] を選択する場合の表示例です。

スクリーンセーバによっては、パソコンの絵の中にプレビューが表示されます。[プレビュー] ボタンをクリックすると、画面全体にスクリーンセーバのプレビューが表示されます。プレビューを中止したい場合は、タッチパッドを操作してください。

- [待ち時間] の時間（分数）を設定する

例えば、「5」に設定すると、パソコンの電源を入れた状態で5分間、タッチパッドを操作せず、キーボードから入力を行わなかったとき、スクリーンセーバが表示されます。

- [パスワードによる保護]

チェックすると、スクリーンセーバにパスワードを設定することができます。

3 [OK] ボタンをクリックする

動作中のスクリーンセーバを解除するには、ShiftキーとCtrlキーを押すか、タッチパッドの操作を行ってください。

スクリーンセーバにパスワードを設定している場合は、パスワードの入力画面が表示されます。

ログオンパスワードを入力してください。

解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。

1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [画面解像度を変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [設定] タブの [画面の解像度] で、解像度を変更する



3 [OK] ボタンをクリックする

ウィンドウの色を変える

ウィンドウ、アクティブタイトルバー、メッセージボックスの配色を変更できます。

- 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [デザイン] タブの [配色] で、 ボタンをクリックし、配色を選択する



プレビューが表示されます。

画面は、[シルバー] を選択する場合の表示例です。

3 [OK] ボタンをクリックする

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏向フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。

サイドライト用FL管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにサイドライト用FL管（冷陰極管）が内蔵されています。サイドライト用FL管（冷陰極管）は、使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。有償にて交換いたします。

7 ハードディスクドライブ

内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。

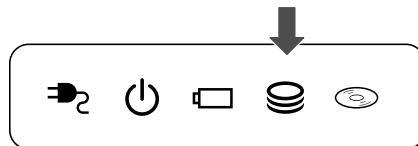
PC カードタイプ (TYPE II または TYPE III) のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い 操作にあたって

- Disk LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起ったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクや CD-R、CD-RW などに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD-R、CD-RW などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。
- 磁石、スピーカなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

1 ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk LED が点灯します。



PC カードタイプや i.LINK (IEEE1394) 対応機器などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップを取ることを推奨します。

8 サウンド機能

本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

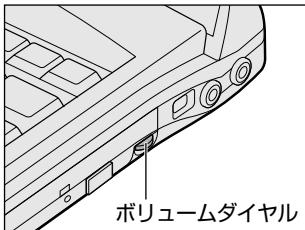
1 スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。

スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、またはWindowsの「マスタ音量」で調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。



2 マスタ音量で調整する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
[マスタ音量] 画面が表示されます。

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。



【音楽／音声を再生するとき】

「マスタ音量」の各項目では次の音量が調整できます。

マスタ音量	全体の音量を調整する
WAVE	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD (Windows Media Player の場合)、DVD-Video など
CD オーディオ	音楽 CD (Windows Media Player 以外の場合)

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『マスタ音量のヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
[マスタ音量] 画面が表示されます。
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] をチェックする
[マイク] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [録音コントロール] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする
[マイク] : 外部マイクから録音するとき
- 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する
同時に 2 つのデバイスを選択することはできません。
録音したい音楽／音声が「マスタ音量」の [WAVE] 対応の場合、録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

2 光デジタルオーディオ出力端子経由で録音するとき

光デジタルオーディオ出力端子経由で録音する場合は、あらかじめボリュームダイヤル、または「マスタ音量」の [WAVE] など、各ソース用のコントロールで再生している音量を調節しておきます。

メモ

- 音量を最小にしたり、ミュート(消音)にすると、光データは出力されません。
- ボリュームダイヤルでは、本体のスピーカからの音量のみを調節できます。
- デジタル出力が「オフ」に設定されていると、光データは出力されません。
[コントロールパネル] → [関連項目] の [コントロールパネルのその他のオプション] → [ヤマハ AC-XG] をクリックし、[デジタル出力] タブで「デジタル出力」が「オフ」になっていないことを確認してください。

参照 ➔ マスタ音量について「本節 ①」

9 マルチドライブ

本製品にはマルチドライブが内蔵されています。マルチドライブは CD-R/RW ドライブと DVD-ROM ドライブ両方の機能を持ちます。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVD を使用するときに守ってほしいことが記述されています。

CD／DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い

- DVD-Video 再生時は、AC アダプタを接続した状態で使用することを推奨します。また、使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちするケースがあります。

1) CD／DVDについて

CD、DVD について説明します。

1 使用できるCD

読み込みできる CD は、次の種類です。

- 音楽用 CD
8cm または 12cm の音楽用 CD が聴けます。
- フォト CD
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録されています。
- CD-ROM
使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのものが使用できます。
- CD エクストラ
記録領域を音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

書き込みできる CD は次の種類です。

- CD-R

書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。

CD-R メディアに書き込む際には、16 倍速対応 CD-R メディアを使用してください。

- CD-RW

CD-RW メディアに書き込む際には、2 / 4 倍速対応（マルチスピード）CD-RW メディアまたは High-Speed CD-RW（4 ~ 10 倍速）対応メディアを使用してください。High-Speed CD-RW 対応メディアを使用した場合の書き込み速度は最大 10 倍速になります。

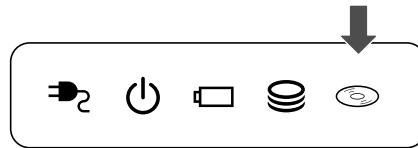
2 使用できるDVD

読み込みできる DVD は、次の種類です。

- DVD-ROM
- DVD-Video（映像再生用です。映画などが収録されています）

3 マルチドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、マルチドライブが動作しているときは、CD-ROM LED が点灯します。

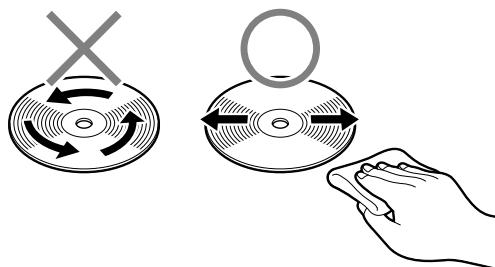


CD／DVD の取り扱いと手入れ

CD／DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- CD／DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD／DVD を読み込むことができなくなります。
- CD／DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD／DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD／DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD／DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD／DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。

-
- CD／DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。
円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



10 スマートメディア

スマートメディア（SmartMedia）をスマートメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

お願い　スマートメディアの使用にあたって

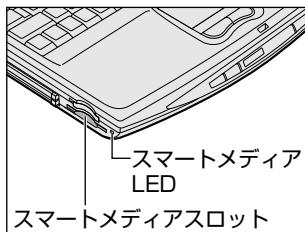
- SSFDC フォーラムで規定された仕様以外の機器で使用したスマートメディアは使用できません。
- 本製品の後に発売されたスマートメディアを使用した場合の動作を保証することはできません。
- スマートメディアを使用しない場合は、専用の静電気防止ケースに入れて保管してください。

1) スマートメディア

本製品では 3.3V／5.0V のスマートメディア（RAM）を使用できます。

1 スマートメディアスロットに関する表示

スマートメディアとデータをやり取りしているときは、スマートメディア LED が点滅します。



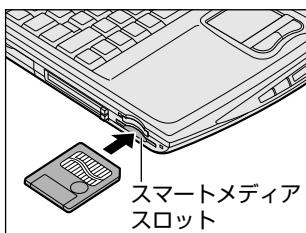
2 スマートメディアのセットと取り出し

⚠ 注意

- スマートメディアは必ず正しい手順で取り出してください。書き込み・読み出し中はスマートメディア LED が点滅します。書き込み・読み出しが終わるまでは電源を切ったり、スマートメディアを取り出したりしないでください。データやスマートメディアが壊れるおそれがあります。
- スマートメディアのコネクタ部分には触れないでください。静電気で壊れる場合があります。
- スマートメディアは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、スマートメディアのデータが壊れるおそれがあります。

1 セット

- 1 スマートメディアのコネクタ部分（金色の部分）を上に向け、スマートメディアスロットにゆっくり挿入する



2 取り出し

- 1 スマートメディア LED が消灯していることを確認し、スマートメディアの使用を停止する
 - ① [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする
 - ② [リムーバブルディスク (D:)] (標準値) を右クリックする
 - ③ 表示されたメニューから [取り出し] をクリックする
- 2 スマートメディア LED が消灯していることを確認する
- 3 スマートメディアをセットしたときと同じように少し押す
スマートメディアが少し出でてきます。そのまま手で取り出します。

3 スマートメディアの内容を見る

- 1 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする
[マイコンピュータ] 画面が表示されます。
- 2 [リムーバブルディスク (D:)] (標準値) をクリックする
[リムーバブルディスク (D:)] (標準値) 画面が開き、セットしたスマートメディアの内容が表示されます。

3 スマートメディアを使う前に

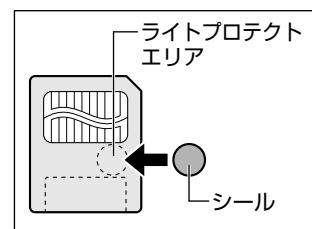
1 書き込み保護

大切なデータを誤って消去しないように、書き込み保護をセットし、スマートメディアへの書き込み（保存）を禁止できます。

書き込み保護のセット

ライトプロテクトエリアに書き込み禁止シールを貼る
この状態のスマートメディアには、データの書き込みはできません。

データの読み取りはできます。



書き込み保護の解除

ライトプロテクトエリアの書き込み禁止シールをはがす

お願い

- 一度使用してはがした書き込み禁止シールは、再利用しないでください。粘着力がおちてはがれやすくなります。機器内部ではがれると、故障の原因になります。

2 スマートメディアのフォーマット

フォーマットとは、スマートメディアにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、スマートメディアを使えるようにすることです。

お願い

- Windows 上 ([マイコンピュータ] 画面) でスマートメディアのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラなど他の機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのスマートメディアに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したスマートメディアを再フォーマットする場合は注意してください。

新品のスマートメディアは、スマートメディアの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、スマートメディアを使用する機器（デジタルカメラなど）でフォーマットを行ってください。

フォーマット方法については『使用する機器に付属の説明書』を確認してください。

スマートメディアの取り扱い

スマートメディアを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- スマートメディアに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作つて保管するようにしてください。
スマートメディアに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- スマートメディアのコネクタ部分を触らないでください。静電気の影響を受けて、記録した内容が消えるおそれがあります。
また、ごみや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電気的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、スマートメディアに付属のケースに入れてください。
- スマートメディアが汚れたときは、乾燥した柔らかい清潔な布か、ティッシュなどで軽く拭いてください。
- ラベルは正しい位置に貼ってください。
貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。

11 SDメモリカード

SDメモリカードをSDメモリカードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

1) SDメモリカードについて

SDメモリカードについて説明します。

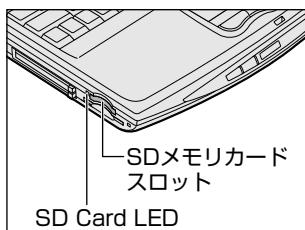
本製品のSDメモリカードスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。

お願い SDメモリカードの使用にあたって

- SDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るために技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

1 SDメモリカードスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、SDメモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card LEDが点灯します。



2 SD メモリカードのセットと取り出し

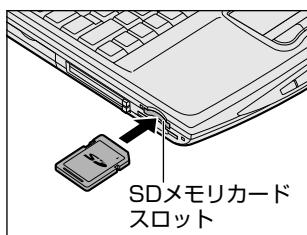
SD メモリカードを SD メモリカードスロットに挿入することを「SD メモリカードをセットする」といいます。

⚠ 注意

- SD Card LED が点灯中は、電源を切ったり、SD メモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。
データや SD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- SD メモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SD メモリカードのデータが壊れるおそれがあります。

1 セット

1 SD メモリカードのラベルを貼られた面を上にして、SD メモリカードスロットに挿入する



奥まで挿入します。

2 取り出し

1 SD メモリカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [TOSHIBA SD Memory Card Drive- ドライブ (F:) を安全に取り外します] (標準値) をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 SD メモリカードを押す

カードが少し出でてきます。そのまま手で取り出します。

3 SDメモリカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

- [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする
[マイコンピュータ] 画面が表示されます。

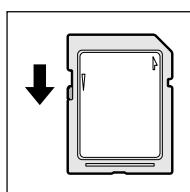
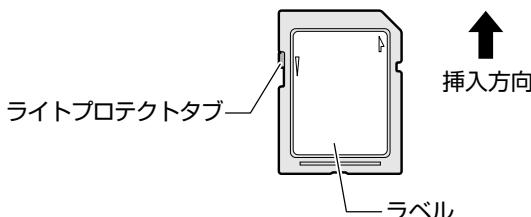
- [リムーバブルディスク (F:)] (標準値) をクリックする

[リムーバブルディスク (F:)] (標準値) 画面が開き、セットした SD メモリカードの内容が表示されます。

3 SD メモリカードを使う前に

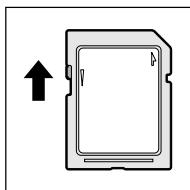
1 ライトプロテクトタブ

SD メモリカードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態の SD メモリカードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態の SD メモリカードには、データの書き込みも読み取りもできます。

2 SDメモリカードのフォーマット

フォーマットとは、SDメモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SDメモリカードを使えるようにすることです。

新品のSDメモリカードは、SDメモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、SDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）でフォーマットを行ってください。

フォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

⚠ 注意

- Windows上（[マイコンピュータ]画面）でSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。

お願い

- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

SDメモリカードの取り扱い

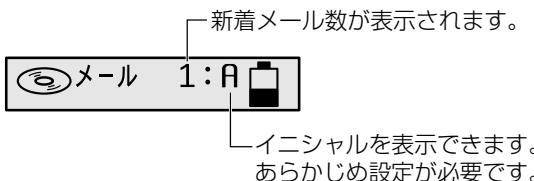
SDメモリカードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- SDメモリカードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作つて保管するようにしてください。
SDメモリカードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SDメモリカードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。
ごみや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電気的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SDメモリカードに付属のケースに入れてください。
- SDメモリカードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

12 新着メールをモードパネルで確認する

メールソフトを起動しなくても、設定した日時に自動的にWindowsを起動して新着メールが届いているかどうかチェックできます。これを新着メールチェック機能といいます。

新着メールが届いていると、モードパネルに新着メール数が表示されます。



新着メールチェック機能を使用するには、あらかじめ設定が必要です。

新着メールチェックを行うには、電話料金およびプロバイダへの接続料金がかかります。

【新着メールチェック機能を使用できる状態】

新着メールチェック機能を使用するときは、必ずACアダプタを使用し、本製品と電話回線をモジュラーケーブルで接続してください。

新着メールチェック機能はパソコンが次の状態のときに使用できます。

- 電源が入っているとき
- スタンバイ機能を実行しているとき
- 休止状態のとき

スタンバイ機能を実行中や休止状態にしているときは、設定した時間にパソコンが自動的に起動し、新着メールをチェックします。

新着メールチェック機能は、メールソフトの設定が完了している場合に使用できます。

メールソフトの設定については、契約しているプロバイダからの資料を確認してください。

1 新着メールチェックの設定をする

新着メールチェック機能を使用するために必要な、各種設定について説明します。

1 Windowsログオンパスワードを設定する

新着メールチェック機能を設定するには、Windowsのログオンパスワードの入力が必要です。あらかじめWindowsのログオンパスワードを設定しておいてください。

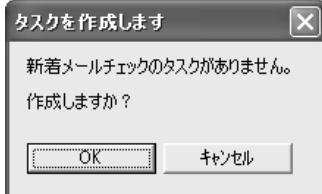
 Windowsのログオンパスワードについて『基本をマスター 4章』

2 [メール]アイコンを通知領域に表示する(新着メールチェック機能を開始する)

新着メールチェック機能は、「メール着信ユーティリティ」で設定します。

「メール着信ユーティリティ」は次の手順で起動します。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ディスクトップパフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [新着メールチェックのスケジュール設定] をクリックする



この操作を初めて行った場合、「タスクを作成します」画面が表示されます。

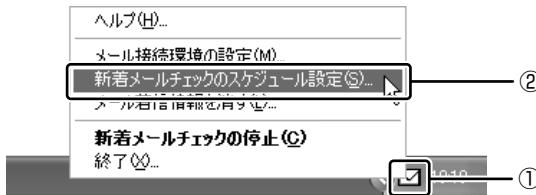
次の手順を行ってください。

- ① 表示される内容を確認して、[OK] ボタンをクリックする
[アカウント パスワードを設定してください] 画面が表示されます。
 - ② [パスワード] と [パスワード確認入力] の2カ所に、Windows のログオンパスワードを入力する
Windows のログオンパスワードを設定していない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックして、「メール着信ユーティリティ」を終了してください。Windows のログオンパスワードを設定したうえで、もう1度「メール着信ユーティリティ」を起動してください。
 - ③ [OK] ボタンをクリックする
[新着メールチェックのスケジュール設定] 画面が表示されます。
- 3 [基本設定] タブで [実行する (指定された時刻に新着メールのチェックを行う)] をチェックする (☑)
 - 4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする
 - 5 [基本設定] タブで [コンピュータ起動時に常駐する] をチェックする (☑)
チェックしておくとパソコン起動時に自動的に [メール] アイコン (✉) が通知領域に表示され、新着メールチェック機能が開始できるので便利です。
 - 6 [OK] ボタンをクリックする
通知領域に [メール] アイコン (✉) が表示されます。
続けて新着メールチェックのスケジュールを設定してください。

3 新着メールチェックのスケジュールを設定する

新着メールチェックを開始する日や時間を設定します。

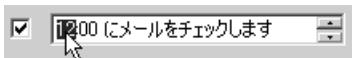
- 通知領域の【メール】アイコン(✉)を右クリックし①、表示されたメニューから【新着メールチェックのスケジュール設定】をクリックする②



- 【基本設定】タブで【スケジュール】を設定する



- 【開始日】でチェックを開始する日を設定する
ボタンを押すとカレンダーが表示されますので、開始したい日をクリックしてください。
- 【継続日数】でチェックを続ける期間を設定する
最大30日まで設定できます。
- 何時に新着メールチェックを行うか設定する
1日に最大3回まで設定できます。チェックしたい回数だけチェックボックスをチェックします(✓)。
時間を設定するには、設定したい【時間】【分】にポインタをあわせてクリックします。数字が反転表示しますので、ボタンで設定します。



- 【詳細設定】タブで【タスクの実行時にスリープを解除する】と【レジューム後ハイバネーションする】をチェックする

スタンバイ機能を実行中、または休止状態のときに新着メールチェック機能を使用するときにチェックします。
【レジューム後ハイバネーションする】をチェックすると、新着メールチェック後に、自動的に休止状態になります。

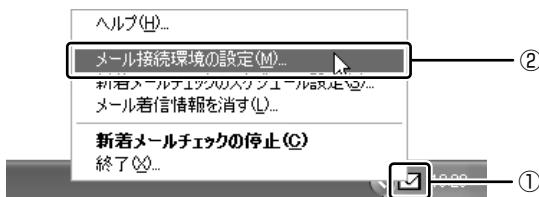
4 [OK] ボタンをクリックする

4 新着メールチェックの接続環境を設定する

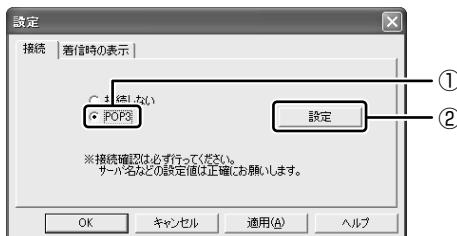
初めて新着メールチェック機能を使用するときは、メールソフトの接続環境の設定が必要です。

新着メールチェック機能は新着メール数だけを確認できます。メールの内容を確認することはできません。メールの内容を確認するには、使用しているメールソフトで送受信を行う必要があります。

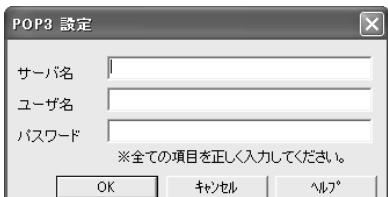
- 通知領域の【メール】アイコン(✉)を右クリックし①、表示されたメニューから【メール接続環境の設定】をクリックする②



- 【接続】タブで【POP3】をチェックし①、【設定】ボタンをクリックする②



- 必要な項目を入力する



プロバイダから指定されている
[サーバ名] [ユーザー名] [パスワード] を入力してください。

- [OK] ボタンをクリックする

- 【設定】画面で【OK】ボタンをクリックする

5 モードパネルの設定

新着メールがあったときに、モードパネルに新着メール数が表示されるように設定します。

【新着モードパネルの設定メール数を表示する】

- 1 コントロールパネルを開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [東芝コントロール] をクリックする
- 3 [モードパネル] タブの [表示モード] で、[新着メール情報を表示する] をチェックする (☑)



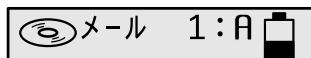
- 4 [OK] ボタンをクリックする

新着メールチェックが実行され、新着メールがあると、モードパネルに [メール XX] と表示されます。



【新着メール数とイニシャルを表示する】

モードパネルに新着メール数を表示するときに、イニシャルとしてお好きなアルファベット（大文字、小文字）半角 1 文字を追加して [メール XX : X] と表示させることができます。



新着メール数を表示する設定を行ったうえで設定してください。

- 1 通知領域の [メール] アイコン (✉) を右クリックし、表示されたメニューから [メール接続環境の設定] をクリックする

-
- 2 [着信時の表示] タブの [着信時の表示イニシャル] に、設定したいアルファベットを 1 文字入力する

設定できる文字は、アルファベットの大文字 (A ~ Z) または小文字 (a ~ z) のうち 1 文字です。半角で入力してください。



- 3 [OK] ボタンをクリックする

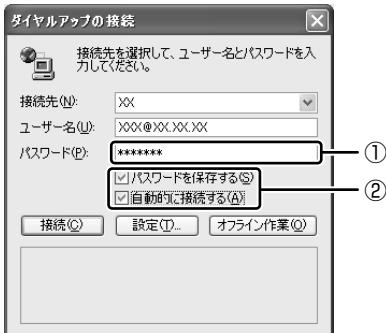
6 インターネットへの接続の設定

- 1 AC アダプタとモジュラーケーブルを接続する
- 2 [コントロールパネル] を開き、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 3 [インターネットオプション] をクリックする
[インターネットのプロパティ] 画面が表示されます。
- 4 [接続] タブで [通常の接続でダイヤルする] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
- 5 Internet Explorer を起動する

参照 → Internet Explorer の起動方法 『基本をマスター 2 章』

参照 → インターネット接続について 『まずはこれから』

- 6 [ダイヤルアップの接続] 画面で、[パスワード] にパスワードを入力し①、[パスワードを保存する] と [自動的に接続する] をチェックする② ()



- 7 [接続] ボタンをクリックする

一度インターネットに接続して、設定を保存します。[キャンセル] ボタンや [閉じる] ボタン () をクリックすると設定は保存されません。

インターネットに接続されると、[ダイヤルアップの接続] 画面が消えます。

- 8 インターネットへ接続を続ける必要がない場合、Internet Explorer の [閉じる] ボタン () をクリックする

- 9 [今すぐ切断する] をクリックする

インターネットへの接続が終了します。

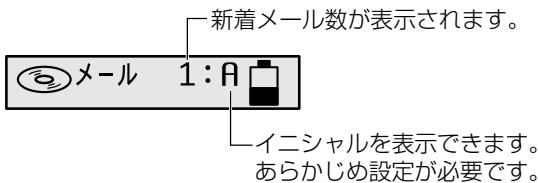
7 パソコンを起動せずに新着メールチェックをする

パソコンが起動していないときには、新着メールチェック機能を使うには、スタンバイを実行するか、休止状態にしてください。

参照 ➤ スタンバイの実行、休止状態について「2章 3」

2 新着メールを確認する

設定したスケジュールに従って、新着メールチェックが行われます。新着メールがあると、モードパネルに新着メール件数が表示されます。



1 メール着信情報を消す

メールソフトを起動してメールの内容を確認した場合、新着メールをすべて既読にしてもモードパネルの新着メール件数の表示は消えません。この場合、次の方法で表示を消してください。

- 1 通知領域の【メール】アイコン(✉)を右クリックし、表示されるメニューから【メール着信情報を消す】をクリックする
モードパネルの新着メール件数の表示が消えます。

3 新着メールチェックを停止する

1 新着メールチェック機能を一時停止する

- 1 通知領域の【メール】アイコン(✉)を右クリックし、表示されるメニューから【新着メールチェックの停止】をクリックする
アイコンが(✉)に変わり、新着メールチェック機能を一時的に停止します。

2 新着メールチェック機能を再開する

- 1 通知領域の【メール】アイコン(✉)を右クリックし、表示されるメニューから【新着メールチェックの開始】をクリックする
- 2 表示されるメッセージを確認し、[OK]ボタンをクリックする
アイコンが(✉)に変わり、設定したスケジュールに従って新着メールチェックを再開します。

3 新着メールチェック機能を終了する

1 通知領域の【メール】アイコン（✉）を右クリックし、表示されるメニューから【終了】をクリックする

2 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする
アイコンの表示が消えます。

この操作を行ったあと、再び新着メールチェック機能を使用したいときは、「本節 ①-2 【メール】アイコンを通知領域に表示する（新着メールチェック機能を開始する）」を確認してください。

13 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
 - 分岐アダプタとは
1つの電話回線に電話とパソコンなど複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分ける機器。
 - 回線切換器とは
1つの電話回線に複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分け、自動的に接続を切り替える機器。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、イスス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2002年4月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく
変更できない場合があります。

1 設定方法

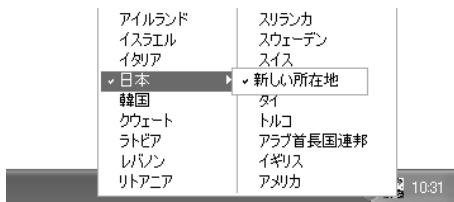
- [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA Internal Modem] → [Region Select Utility] をクリックする
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () が通知領域に表示されます。



- 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



- 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

「新しい場所設定作成」画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。

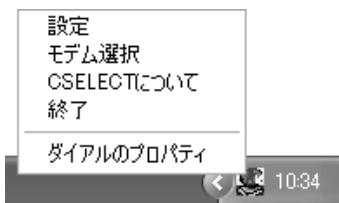
新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。
選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

- 1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン（）を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイアルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

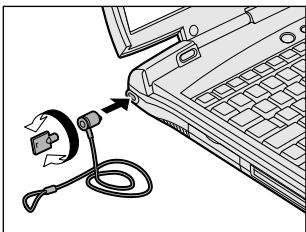
14 セキュリティロック

セキュリティロック・スロットに、チェーンなどを接続して、盗難を防止します。

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを、購入店に確認してください。

1 セキュリティロック用機器の取り付け

- 1 セキュリティロック・スロットにセキュリティロック用の機器（別売り）を接続する



2章

バッテリ駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリ使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

1	バッテリについて	80
2	省電力の設定をする	88
3	パソコンの使用を中断する／電源を切る	94

1 バッテリについて

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。

バッテリを充電して、バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリパックを取り付けます。本製品を初めて使用するときは、バッテリを充電してから使用してください。

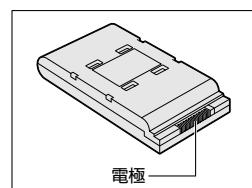
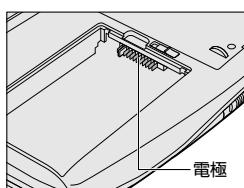
『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠ 警告

- バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリ（TOSHIBA バッテリパック:PABAS018）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがありますため発煙、火災のおそれがあります。

⚠ 注意

- バッテリパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- 別売りのバッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。
バッテリ（バッテリパック、時計用バッテリ）を使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- 本体側の電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

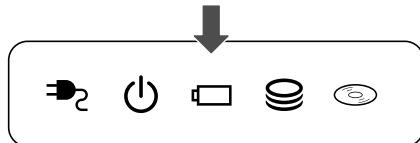


1 バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery □ LEDが緑色に点灯すれば充電完了です。

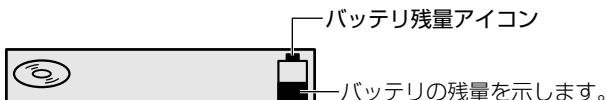


バッテリ駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリの充電が必要です。Battery □ LEDは次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none"> ・バッテリが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリ異常

2 モードパネルで確認する

モードパネルに表示されたバッテリ残量アイコンで、バッテリの状態を確認できます。



バッテリ充電量の状態にあわせて、バッテリ残量アイコンは5段階に表示が変わります。

バッテリ残量アイコンが のときは、フル充電状態です。

バッテリ残量アイコンが のときは、すぐに充電が必要な状態です。

バッテリ残量アイコンの残量表示は、概算によるものです。パソコンの使用状況によっては、実際の残量と異なることがあります。

3 通知領域の【省電力】アイコンで確認する

通知領域の【省電力】アイコン（）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。

このときバッテリ充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリ駆動で使用している場合には、バッテリ動作予想時間も表示されます。



参照→ 省電力設定について「本章 2」

1ヶ月以上の長期にわたり、AC アダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行わないと、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery □ LED や【省電力】アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

参照→ 再充電の方法について「本節 ②-2」

3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery □ LED がオレンジ色に点滅する（バッテリの減少を示しています）
- バッテリのアラームが動作する

東芝省電力ユーティリティの【アラーム】タブで設定すると、バッテリの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ①パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を供給する
- ②電源を切ってから、フル充電のバッテリパックを取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切れます。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery □ LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。

時計用バッテリの充電は、ACアダプタを接続しているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【充電完了までの時間】

状態	時計用バッテリ
電源 ON (Power ⏪ LED が点灯)	10 時間以上
電源 OFF (Power ⏪ LED が消灯)	ほとんど充電しない

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2) バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

- バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリは 10 ~ 30°C の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN ⚡ LED が緑色に点灯して Battery □ LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

パソコン本体に AC アダプタを接続すると、電源の ON/OFF にかかわらず充電されます。

2 Battery □ LED が緑色になるまで充電する

バッテリの充電中は Battery □ LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN □ LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【充電完了までの時間】

状態	充電時間
電源 ON	約 8 時間以上
電源 OFF	約 2.5 時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。

【使用できる時間】

バッテリ駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。

次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

測定法	動作時間
JEITA 測定法 1.0	約 1.7 時間

【使っていないときの充電保持時間】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減っていき、放置環境などによって異なります。

次の保持時間は、フル充電した状態で電源を切った場合の目安にしてください。

パソコン本体の状態	保持時間
電源切断または休止状態	約 2 週間

2 バッテリを長持ちさせるには

- ACアダプタをコンセントに接続したままパソコンを8時間以上使用しない場合は、バッテリを長持ちさせるためにもACアダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヶ月以上の長期間バッテリを使わない場合は、パソコン本体からバッテリパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヶ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリ駆動でパソコンを使用してください。
その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体からACアダプタをはずし、パソコンの電源を入れる電源が入らない場合は手順4へ進んでください。

3 5分程度バッテリ駆動を行う

この間、Battery □ LEDが点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐにACアダプタを接続し、手順4へ進みます。

4 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN ▷ LEDが緑色に点灯してBattery □ LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery □ LEDが緑色になるまで充電する

バッテリの充電中はBattery □ LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN ▷ LEDが消灯している場合は、通電していません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリを節約する】

バッテリを節約して、本製品をバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする 参照 → 「本章 3-②」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく 参照 → 「本章 3-③」
- 省電力モードに設定する 参照 → 「本章 2」

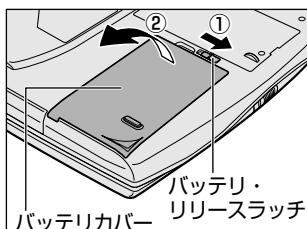
3 バッテリパックを交換する

バッテリパックの交換方法を説明します。

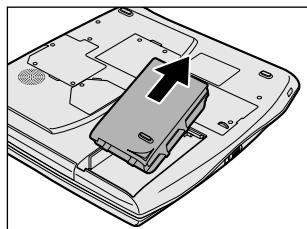
バッテリパックの取り付け / 取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

1 取りはずし／取り付け

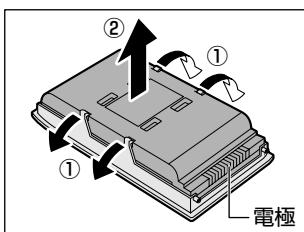
- 1 データを保存し、アプリケーションを終了する
- 2 [スタート] → [終了オプション] をクリックする
- 3 [電源を切る] をクリックする
Windows を終了して電源が切れます。
- 4 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 5 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 6 バッテリ・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリカバーを引き上げる②



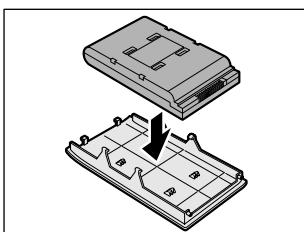
- 7 バッテリパックごと、バッテリカバーを取り出す



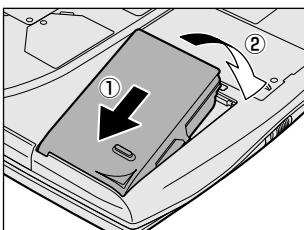
8 バッテリカバーからバッテリパックを取り出す



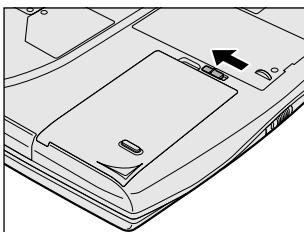
9 交換するバッテリパックをバッテリカバーに取り付ける



10 バッテリパックをコネクタに斜めに挿入し①、静かに差し込む②



11 バッテリパックを固定する



2 省電力の設定をする

バッテリ駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

1 省電力ユーティリティ

省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。
ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

1 省電力ユーティリティの起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [東芝省電力] をクリックする
[東芝省電力のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。また、現在の電源やバッテリ残量などの詳細情報も表示します。



[電源に接続] [バッテリを使用中]

表示されている設定可能な省電力モードの一覧から、設定したい省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリを使用中] は AC アダプタ接続／バッテリ駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

フルパワー	最高性能で動作する、消費電力が一番大きいモードです。購入時の初期状態では、[電源に接続]（ACアダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。
ロングライフ	消費電力を優先して省電力制御を行います。
ノーマル	性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。購入時の初期状態では、[バッテリを使用中]（バッテリ駆動で使用するとき）がこのモードに設定されています。
ハイパワー	性能を優先して省電力制御を行います。
DVD再生	性能と消費電力を両立してDVDの再生などに適した省電力制御を行います。
プレゼンテーション	性能と消費電力を両立してプレゼンテーション用ソフトなどの使用に適した省電力制御を行います。
スーパーロングライフ	消費電力を最優先

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

すべての省電力モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項4 省電力モードの詳細設定」を確認してください。

【省電力モードの作成】

- ①新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ②[コピー] ボタンをクリックする
[～のコピー] という省電力モードができます。
- ③その省電力モードの名前を変更する
- ④必要に応じて省電力の設定を変更する

【省電力モードの削除】

- ①削除する省電力モードをクリックする
- ②[削除] ボタンをクリックする
[元に戻す] ボタンで直前に行った削除をキャンセルすることができます、[閉じる] ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている7つの省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする (☑) と現在の省電力モードを示す省電力アイコン (节能) が通知領域に表示されます。

省電力アイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

【タスクバーにCPU周波数の状態を表示する】

[タスクバーにIntel(R) SpeedStep(TM) Technologyの状態を表示する] をチェックする (☑) と現在のCPU周波数の状態を示すアイコン (CPU) が通知領域に表示されます。

CPU周波数アイコンをクリックすると、CPU周波数を変更することができます。

3 【休止状態】タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。

使用する場合は、[休止状態をサポートする] をチェックしてください。



参照 ➤ 休止状態について「本項 4- [動作] タブ」

4 省電力モードの詳細設定

1 [2]の【電源設定】タブで利用したい省電力モードを選択し、【詳細】ボタンをクリックする

選択した省電力モードのプロパティ画面が表示されます。



【一般】タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

【省電力】タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

【動作】タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

お願い

- 次のような場合はスタンバイが無効になり、保存されていないデータは消失します。
 - ・誤った使いかたをしたとき
 - ・静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
 - ・バッテリが消耗したとき
 - ・故障、修理、バッテリ交換のとき
 - ・バッテリ駆動で使用中にバッテリパックを取りはずしたとき
 - ・増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき
- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。
Disk LEDが点灯中は、バッテリパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、保存されていないデータは消失します。

メモ

動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、中断したときの状態をすばやく再現することができますが、休止状態よりバッテリを消費します。バッテリを使い切るとデータは消失するので、スタンバイ実行時は、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

自動的にスタンバイが実行されるとき

購入時の設定のまま、ACアダプタを電源に接続して30分以上放置した場合、システムはスタンバイを実行します。

この場合、スタンバイからの復帰時に、ネットワーク関係のアプリケーションが正常に動作しないことがあります。その場合は、もう一度ネットワークにログインし直してください。「東芝省電力ユーティリティ」でスタンバイを無効に設定しておくと、自動的にスタンバイが実行されることはありません。

ただし、設定を変更すると国際エネルギーestarプログラム規格の基準を満たせなくなります。

【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの「休止状態をサポートする」がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリ充電量が減少すると、休止状態にして電源を切れます。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れるので、休止状態を有効にしておくことを推奨します。

【入力を求める】

[終了オプション] 画面が表示されます。

終了時の動作を選択してから、パソコンの電源を切ることができます。

【電源オフ】

Windows を終了して電源を切れます。

[スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める] をチェックする（）と、Windows のパスワードを設定している場合には、復帰するときにWindows パスワードの入力が必要になります。

【アラーム】タブ

バッテリ残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。

[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリを使用中] に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

【デバイスの設定】タブ

デバイスを使用するかしないかを設定します。デバイスごとに設定ができます。また、未使用状態に切り替えられたときに確認のメッセージが表示されるようにできます。

5 複数ユーザで使用する場合

「東芝省電力ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のみが使用できます。設定内容は各ユーザごとに保存されます。

参照 ➔ 複数のユーザで使用する場合は『基本をマスター 4章』

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 [東芝省電力ユーティリティ] を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

スタンバイまたは休止状態を実行するには、あらかじめ設定しておく必要があります。

参照 ➤ スタンバイ、休止状態について「本章2」

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイ中や休止状態では、バッテリや増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

1 スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリを消費します。バッテリを使いつぶしてしまうとデータは消失するので、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



2 [スタンバイ] をクリックする



メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
 - ② [東芝省電力] をクリックする
 - ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



3 [Shift]キーを押したまま【休止状態】をクリックする

[Shift]キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



Disk LED が点灯中は、バッテリパックを取りはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。

③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 電源スイッチを押す

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。本節②-1 手順1 を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順1の④で [入力を求める] を選択したときは、[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

2 ディスプレイを閉じる |

ディスプレイを閉じたときに自動的にパソコンの使用を中断する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。本節②-1 手順1 を参照して、設定しておいてください。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] のいずれかを選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 ディスプレイを閉じる

選択した状態で作業を中断します。

次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。

3章

音楽と映像

音楽と映像を本製品で楽しむ方法について説明しています。

パソコンで音楽を聴く。それを CD に書き込んでオリジナルを作成する。写真や DVD-Video の映像を観る。それを編集して個人コレクションを作るなど。パソコンの楽しみかたを紹介します。

-
- 1 音楽CDを聴く 100
 - 2 音楽ファイルを聴く 106
 - 3 オリジナル音楽CDを作る 114
 - 4 オリジナルMDを作る 118
 - 5 DVD-Videoを観る 119
 - 6 デジタルカメラの写真を編集／整理する 125
 - 7 動画を編集する 128

1 音楽 CD を聴く

本製品では Windows を起動している状態でも、また Windows を起動しない状態でも CD を聴くことができます。

メモ

音楽 CD の再生中に、パソコン本体に振動・衝撃を与えると、音飛びすることがあります。

1 Windows を起動して音楽 CD を聴く

Windows を起動して音楽 CD を再生するためには、音楽 CD に対応したアプリケーションが必要です。

本製品には次のアプリケーションがインストールされています。

- LIVE MEDIA PLAYER
- Windows Media Player

1 LIVE MEDIA PLAYER

1 音楽 CD をセットする

ドライブのイジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが出てきます。

[Audio CD (E:)] 画面が表示されます。

購入時は、音楽 CD を再生するアプリケーションとして「LIVE MEDIA PLAYER」が選択されています。

参照 ➤ CD のセットについて『基本をマスター 1 章 1』

- 2 [オーディオ CD の再生 LIVE MEDIA PLAYER 使用] が選択されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする
「LIVE MEDIA PLAYER」が起動します。

3 画面のボタンで操作する

「LIVE MEDIA PLAYER」の各操作ボタンの役割は次のとおりです。



ヘルプの起動方法

1 「LIVE MEDIA PLAYER」を起動後、? をクリックする

参照 ➡ 「LIVE MEDIA PLAYER」の問い合わせ先『困ったときは 付録』

2 オーディオ／アプリケーションボタンで起動する

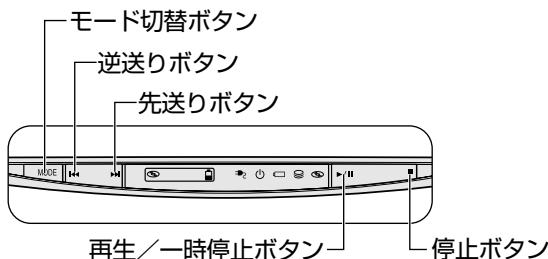
オーディオ／アプリケーションボタンを使ってアプリケーションを起動することができます。

1 モードパネルにCD／DVD再生アイコン（⌚）が表示されていることを確認する

CD／DVD再生アイコンが表示されていない場合は、表示されるまで、モード切替ボタンを何度か押してください。



2 再生／一時停止ボタンを押す



「LIVE MEDIA PLAYER」が起動します。

オーディオ／アプリケーションボタンでも、再生や停止などの操作ができます。再生しているトラックの1つ前のトラックを再生するには、トラックの再生が始まって4秒以内に逆送りボタンを押してください。4秒を過ぎてから押すと、現在再生しているトラックの先頭から再生されます。

【アプリケーションを変更する】

モードパネルにCD／DVD再生アイコン（）が表示されているとき（CD／DVD再生モード時）に、起動するアプリケーションを「Windows Media Player」に変更できます。

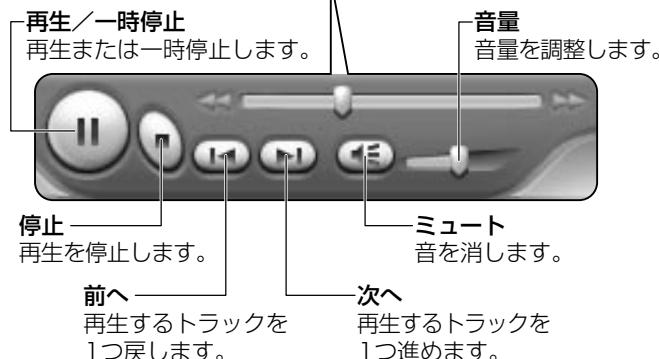
- 1 [コントロールパネル]を開き、[ プリンタとその他のハードウェア]をクリックする
- 2 [ 東芝コントロール]をクリックする
- 3 [メディアアプリケーション]タブの [CDオーディオコントロール]でアプリケーションを選択する



- 4 [OK]ボタンをクリックする

3 Windows Media Player

「Windows Media Player」の各操作ボタンの役割は次のとおりです。



ヘルプの起動方法

- 1 「Windows Media Player」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [トピックの検索] をクリックする

➡ 参照 「Windows Media Player」の問い合わせ先『困ったときは付録』

2) Windows を起動しないで音楽 CD を聴く

オーディオ／アプリケーションボタンを使うと、Windows を起動しないで音楽 CD を再生できます。

1 操作方法

マルチドライブの電源を入れてから 2 分以上操作がない場合は、自動的にマルチドライブの電源が OFF になり、モードパネルには CD/DVD 再生アイコンのみ表示されている状態になります。その場合は、もう 1 度停止ボタンを押して電源を入れ直してください。

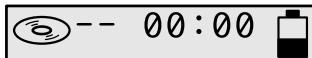
1 モードパネルに CD ／ DVD 再生アイコン()が表示されていることを確認する

CD ／ DVD 再生アイコンが表示されていない場合は、表示されるまで、モード切替ボタンを押してください。



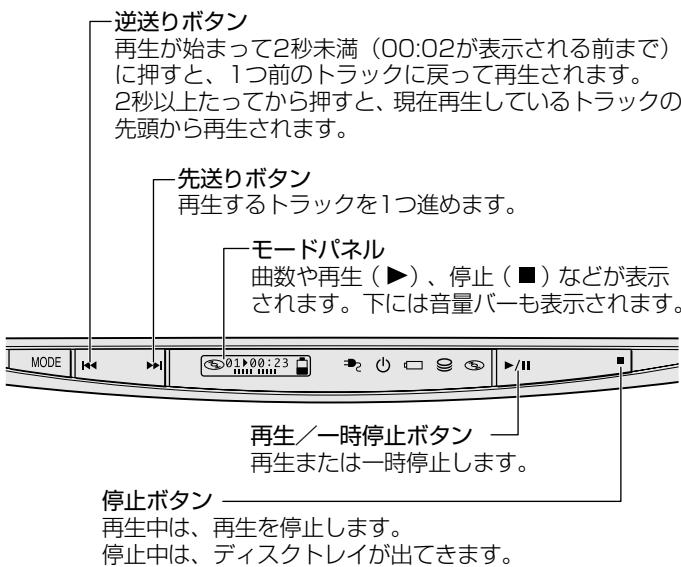
2 停止ボタンを押す

マルチドライブの電源が入り、モードパネルに次のように表示されます。Power  LED は点灯しません。しばらくしてディスクトレイが出てきます。



3 音楽 CD をセットする

4 オーディオ／アプリケーションボタンで操作する



5 終了する場合は、音楽CDを取り出す

停止ボタンを押して再生を停止した後、もう1度停止ボタンを押すと、ディスクトレイが出てきます。

持ち運ぶときは、モード切替ボタンを4秒以上押してロック状態（□）にしてください。オーディオ／アプリケーションボタンで操作できなくなります（ロック状態）。

もう1度4秒以上押すか、電源を入れると、ロック状態が解除されます。

2 音楽ファイルを聴く

本製品では次のような音楽ファイルを再生できます。

- WAVE形式 (.wav)
- MIDI形式 (.mid)
- MP3形式 (.mp3) など

1 音楽再生用アプリケーションを起動する

オーディオ／アプリケーションボタンを使ってアプリケーションを起動することができます。

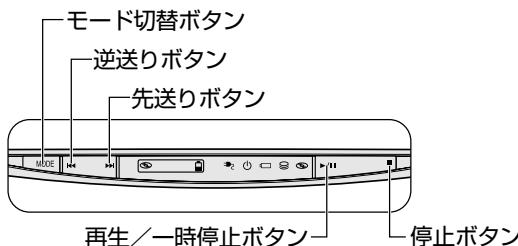
1 起動方法

1 モード切替ボタンを押す

モードパネルにオーディオデジタル再生アイコン（♪）が表示されるまで、モード切替ボタンを何度か押してください。



2 再生／一時停止ボタンを押す



標準では「LIVE MEDIA PLAYER」が起動します。

参照 ➤ LIVE MEDIA PLAYERの操作について 「本章 1-①」

起動するアプリケーションは、次のようにして変更できます。

【アプリケーションを変更する】

モードパネルにオーディオデジタル再生アイコン（♪）が表示されているとき（オーディオデジタル再生モード時）に、起動するアプリケーションを「Windows Media Player」に変更できます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝コントロール] をクリックする
- 3 [メディアアプリケーション] タブの [オーディオ／ビデオコントロール] でアプリケーションを選択する
- 4 [OK] ボタンをクリックする

参照 Windows Media Player について 「本節 ③」

2) LIVE MEDIA PLAYER で再生する

再生する音楽ファイルを用意してください。音楽ファイルは、インターネットからダウンロードしたりアプリケーションを使って自分で作ることもできます。

LIVE MEDIA PLAYER では、複数のファイルを集めてプレイリストを設定できます。そのプレイリストごとに音楽ファイルや音楽 CD のトラックを自由に登録できるので、1枚の MD や CD のようなイメージで使うことができます。

1 音楽ファイルを直接再生する

あらかじめ、再生したい音楽ファイルを「マイ ミュージック」に保存しておきます。

- 1  ボタンをクリックする

音楽ファイルが再生されます。

再生を一時停止するには、 ボタンをクリックします。

再生を再開するには、もう1度  ボタンをクリックします。

再生を停止するには、 ボタンをクリックします。

トラックを選択して再生する

- 1  ボタンをクリックする

 ボタンをクリックすると、次のトラックが再生されます。

 ボタンをクリックすると、前のトラックが再生されます。

- 2  ボタンをクリックする

2 プレイリストから再生する

プレイリストを再生するには、まずプレイリストを作成します。

プレイリストの作成

1 [LIST] ボタンをクリックする

[プレイヤー設定] 画面が表示されます。

2 [新規] ボタンをクリックする



3 プレイリストに追加するファイルを選択し①、[追加] ボタンをクリックする②



この手順を繰り返して、必要な音楽ファイルをすべて追加します。追加し終わったら、手順 4 に進んでください。

4 [プレイリストファイル名] を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②



プレイリストが作成されました。

【プレイリストの設定】

プレイリストの設定は【プレイファイルの設定】画面で行います。

- プレイリストの編集

ファイル名を選択して【編集】ボタンをクリックする

- プレイリストの削除

ファイル名を選択して【削除】ボタンをクリックする

- プレイリストの無効

ファイル名の左にあるチェックをはずす

- プレイファイルの順番の変更

ファイル名を選択して ▲ ボタンまたは ▼ ボタンをクリックする

プレイリストの再生

再生方法は、直接ファイルを再生する場合と同じです。

【プレイリストを選択する】

MD チェンジャや CD チェンジャで次のディスクを選択するようにプレイリストを選択できます。

- 1  ボタンまたは  ボタンをクリックする

 ボタンをクリックすると次のプレイリストが再生されます。

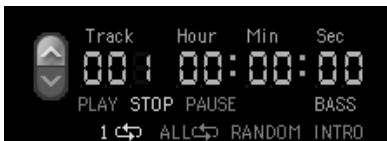
 ボタンをクリックすると前のプレイリストが再生されます。

再生モードを切り替えて再生する

プレイリストは設定されている順番に再生されます。

次のボタンをクリックして再生モードを切り替えることができます。

モードは画面で確認できます。



再生モード	ボタン	内容
NORMAL モード	—	通常の再生を行います。
1 REPEAT モード	1 ↪	現在選択されている曲を繰り返し再生します。
ALL REPEAT モード	ALL ↪	すべての曲を繰り返し再生します。
RANDOM モード	RANDOM *	ランダム再生を行います。
INTRO モード	INTRO	各曲の最初の部分を数秒ずつ再生します。

* 停止中のみ選択できます。

3) Windows Media Player でファイルを再生する

「Windows Media Player」でも音楽ファイルを再生できます。

「Windows Media Player」を起動後、次の手順で操作してください。

各音楽ファイルは「1 トラック」として扱われます。

音楽ファイルには、曲名やアーティスト名などの情報が記録されていることがあります。これらの情報がある場合は、画面上に表示されます。

1 音楽ファイルを直接再生する

再生リストを作成していない場合は、次のように操作してください。

- 1 メニューバーから【ファイル】→【開く】をクリックする
- 2 ファイルを選択し①、聴きたい曲の【開く】ボタンをクリックする②



再生が開始されます。

2 再生リストを作成する

ファイルを好きな順序に並べた再生リストを作成すると、複数の音楽ファイル（CD、ラジオ局、およびビデオからの複数のトラックなど）をグループ化して、指定した順序で再生することができます。

1 メディアライブラリにファイルを追加する

- 音楽CDのトラックをコピーする
 - ① 音楽CDをセットする
 - ② [CDからコピー] ボタンをクリックする
 - ③ コピーするトラックをチェックする
 - ④ [音楽のコピー] ボタンをクリックする
- ファイルを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [ファイルを追加] をクリックする
 - ② [ファイルを開く] 画面でファイルを選択する
- インターネット上の音楽ファイルなどのマルチメディアを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [URLを追加] をクリックする
 - ② [開く] 画面でURLまたはパスを指定する

2 画面左の【メディアライブラリ】ボタンをクリックする

画面が切り替わります。

3 【すべてのオーディオ】をクリックする



メディアライブラリに追加されているファイルが表示されます。

4 【新しい再生リスト】ボタンをクリックする



5 [新しい再生リスト] 画面で、再生リストの名前を入力し①、[OK]ボタンをクリックする②



ここでは例として「新規リスト」とします。

[新規リスト] が [再生リスト] フォルダに追加されます。

6 メディアライブラリの中から再生リストに追加するファイルをクリックする



7 [再生リストに追加] ボタンをクリックしてメニューを表示し、目的の再生リストを選択する

ファイルが再生リストに追加されます。
例として「新規リスト」を選択します。



新しい再生リストが作成されました。

3 再生リストから再生する

1 [メディアライブラリ] 画面で、目的の再生リストをクリックする



リストの内容が右画面に表示されます。

2 [再生] ボタン (▶) をクリックする

再生が開始されます。

3 オリジナル音楽CDを作る

本製品では、CD-RW、CD-Rにデータを書き込むことができるアプリケーション「Drag'n Drop CD」を使用して、オリジナルの音楽CDを作成できます。

1) Drag'n Drop CDを使うために

お願い CD-RW、CD-Rに書き込む前に

CD-RW、CD-Rに書き込みを行うときは、「Drag'n Drop CD」を使用してください。Windows標準のライティング機能や市販のライティングソフトは、使用しないでください。

CD-RW、CD-Rに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らざるに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、使用しているパソコンの設定によっては、書き込みに失敗することがあります。

- CD-R メディアの書き込み速度は最大 16 倍速です。16 倍速で書き込むためには 16 倍速書き込みに対応した CD-R メディアを使用してください。
- CD-RW メディアの書き込み速度は最大 10 倍速です。10 倍速で書き込むためには 10 倍速書き込みに対応した CD-RW メディアを使用してください。
- 次のメーカーの CD-RW、CD-R を使用することを推奨します。

CD-RW（マルチスピード、High-Speed）

：三菱化学（株）、リコー（株）

CD-R ：太陽誘電（株）、三井化学（株）、三菱化学（株）、リコー（株）、日立マクセル（株）

上記以外のメーカーの CD-RW、CD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- 本製品に添付の「Drag'n Drop CD」以外の CD-RW、CD-R 書き込み用ソフトウェアは動作保証していません。
- バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを接続して電源コンセントに接続してください。
- 書き込み用ソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。

 省電力機能について 「2章 2」

- スクリーンセーバなど CPU に負担のかかるソフトウェアは動作しないように設定してください。
- ウイルスチェックソフトを起動している場合は、終了させてください。

- 常駐型のディスクユーティリティやディスクのアクセスを高速化するユーティリティなどは、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。
- SDメモリカード、スマートメディア、フロッピーディスク、PCカードタイプのハードディスクドライブ、USB接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- モデムなど、通信アプリケーションを起動しないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
PCカード、USB対応機器、CRTディスプレイ、i.LINK対応機器、光デジタル対応機器、スマートメディア、SDメモリカード
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- オーディオ／アプリケーションボタンを使用して音楽／音声の再生を行わないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

2) Drag'n Drop CDを使う

「Drag'n Drop CD」は、次の手順で起動してください。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD] → [Drag'n Drop CD] をクリックする
デスクトップ上に、アイコンが表示されます。

2 Drag'n Drop CD の基本操作

デスクトップに表示されるアイコンは、次のような役割をもっています。



[Music BOX]

音楽CDを作成するときに使用します。

音楽ファイルをこのボックスにドラッグすると [Audio CD Layout Window] が開き、そこで好きな曲を選択すると自分だけの音楽CDを作成できます。

[DISC Backup BOX]

CDのバックアップを作成するときに使用します。

データCDや音楽CDなど、CDアイコンをこのボックスにドラッグすると、同じものをCD-RW、CD-Rでもう1枚作成できます。

[Data BOX]

データをCD-RW、CD-Rにバックアップするときに使用します。

CD-RW、CD-Rに書き込みみたいデータファイルのアイコンをこのボックスにドラッグすると、CD-RW、CD-Rに書き込まれます。

Drag'n Drop CD は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。

CDに保存されている MP3 方式または WAVE 方式の音楽ファイルを使用して音楽 CD を作成する場合は、CD から直接 [Music BOX] にドラッグできません。1 度ハードディスクに保存してから音楽 CD を作成してください。

3 音楽CDを作成する

1 音楽 CD をマルチドライブにセットする

[Audio CD (E:)] 画面が表示されます。

2 [キャンセル] ボタンをクリックする

[Audio CD (E:)] 画面が閉じます。

3 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

4 [Audio CD (E:)] アイコン () を、[Music BOX] にドラッグアンドドロップする

[Audio CD Layout Window] 画面が表示され、[音楽 CD トラック情報] には曲情報が表示されています。

5 [ブランク CD サイズ] を指定する

6 書き込みたいトラックを選択する

トラックは複数選択できます。

[再生] ボタン (▶) をクリックすると試し聴きできます。



7 [追加] ボタン (✚) をクリックする

デジタル抽出が開始されます。デジタル抽出が完了するまで、しばらくかかります。進行状況は、[デジタル抽出状況] のバーで確認できます。完了すると、[ベストアルバム トラック情報] に抽出した曲が表示されます。



トラックを選択して、[上] ボタンまたは [下] ボタンをクリックすると、選択したトラックが上下へ移動し、曲順が入れ替わります。

不要なトラックは [削除] ボタンで削除できます。

他の音楽CDからも取り込みたい場合は、ここで音楽CDを入れ替え、手順6、7を繰り返します。

8 マルチドライブに未使用のCD-Rをセットする

9 [CDへの書き込み] ボタン (✔) をクリックする

CDへの書き込みが開始されます。書き込みが終了すると、マルチドライブのディスクトレイが自動的に開きます。

ヘルプの起動方法

「Drag'n Drop CD」の詳しい情報は、ヘルプを確認してください。

- [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD] → [Drag'n Drop CD のヘルプ] をクリックする
「Drag'n Drop CD」のヘルプが表示されます。

➡ 「Drag'n Drop CD」の問い合わせ『困ったときは 付録』

4 オリジナル MD を作る

光デジタルオーディオ出力端子に MD レコーダを接続すると、音楽 CD から MD レコーダへの録音ができます。

お願い

- 録音中は Windows の「マスタ音量」の設定を変更しないでください。パソコンの再生音量を変更すると、MD レコーダでの録音レベルも変更されてしまいます。録音中のパソコン本体からの再生音を消したい場合は、あらかじめボリュームダイヤルを動かなくなるまで手前に回し、音量をゼロにしておいてください。

参照 ➔ マスタ音量について「1 章 8」

1 録音方法

1 音楽 CD をセットする

2 光デジタルオーディオ出力端子と MD レコーダを接続する

プラグの形状を確認して接続してください。

参照 ➔ 光デジタルオーディオ出力端子について「4 章 8」

3 「Windows Media Player」で再生リストを作成する

参照 ➔ 再生リストの作成「本章 2-③」

4 MD レコーダの録音ボタンを押す

5 「Windows Media Player」で再生リストを再生する

MD レコーダに録音が開始されます。

5 DVD-Video を観る

本製品は、マルチドライブにDVD-Videoをセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD-Video再生ソフトウェアとして、「InterVideo WinDVD」が用意されています。

お願い DVD-Videoの再生にあたって

DVD-Videoの再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用してDVD-Videoを再生すると、ノイズが発生する場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Videoを再生してください。

「InterVideo WinDVD」でDVD-Videoを再生する場合、次のことに気をつけて使用してください。

DVD-Video再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CDの再生はサポートしていません。

- DVD-Video再生時は、ACアダプタを接続してください。また、使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちするケースがあります。
- DVD-Videoを再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動しないでください。
その他の注意については、「Readme」に記載しています。
「Readme」の起動は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [readme1st.txt] をクリックしてください。

1 InterVideo WinDVDを起動する

「InterVideo WinDVD」はWindowsからでも、Windowsが起動していない状態（電源が入っていないなど）でも起動することができます。

1 Windowsから起動する

1 DVD-Videoをセットする

[DVD_VIDEO (E:)]画面が表示されます。

 DVDのセットについて『基本をマスター 1章 1』

2 [Play DVD movie InterVideo WinDVD 使用] を選択し①、 [OK] ボタンをクリックする②



「InterVideo WinDVD」が起動します。

2 オーディオ／アプリケーションボタンから起動する

Windows が起動していないときに、オーディオ／アプリケーションボタンで「InterVideo WinDVD」を起動できます。

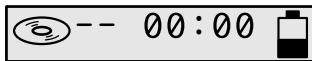
1 モードパネルに CD ／ DVD 再生アイコン()が表示されていることを確認する

CD ／ DVD 再生アイコンが表示されていない場合は、表示されるまで、モード切替ボタンを何度も押してください。



2 停止ボタンを押す

マルチドライブの電源が入り、モードパネルが次のように表示されます。Power  LED は点灯しません。しばらくしてディスクトレイが出てきます。



3 DVD-Video をセットする

ディスクトレイを閉じて、しばらくすると Windows が起動し、その後「InterVideo WinDVD」が起動します。Windows が起動するまで、数秒かかる場合があります。

DVD-Video を再生する場合は、続けて [再生] ボタンをクリックしてください。

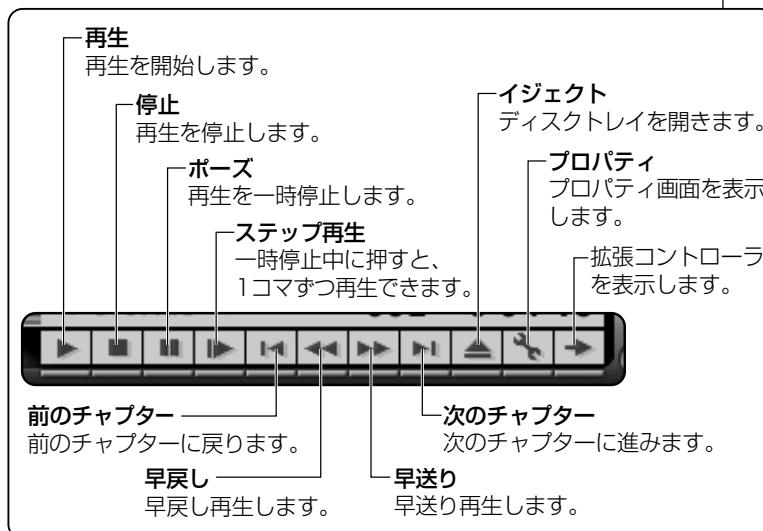
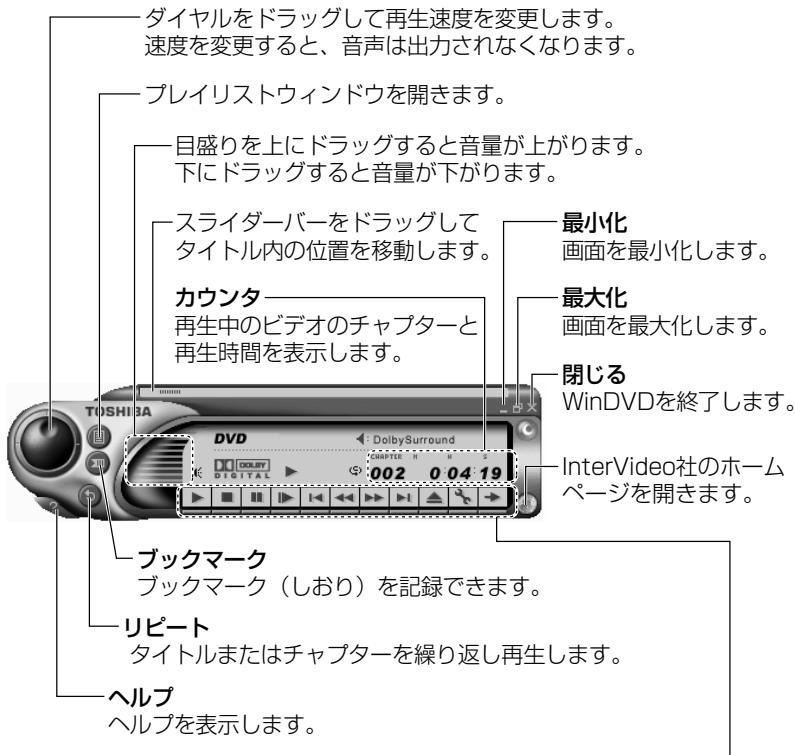
2) InterVideo WinDVD を使う

[InterVideo WinDVD] の操作ボタンの役割は次のとおりです。
再生する DVD-Video によっては、表示が一部異なる場合があります。
また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

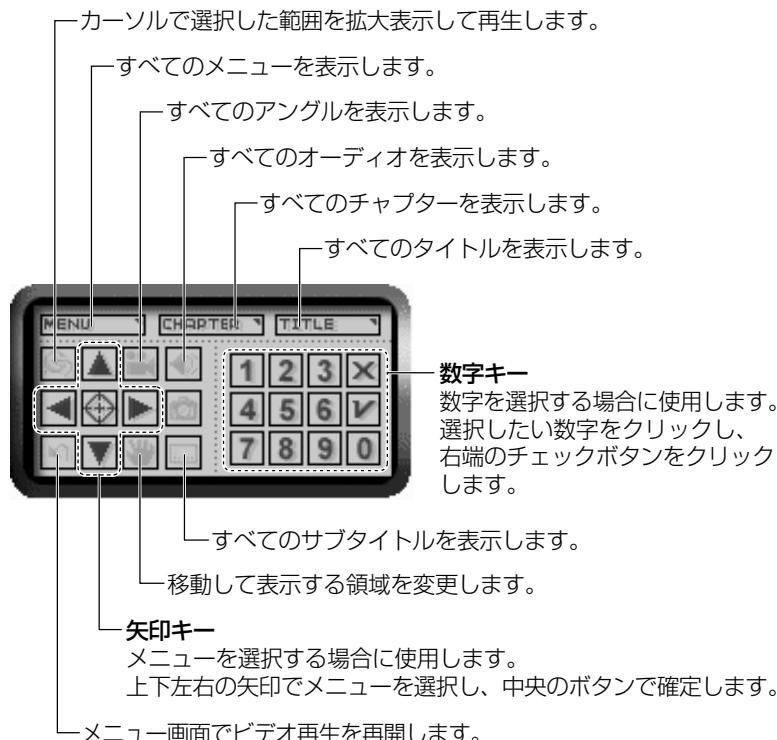
1 ビデオ表示ウィンドウ



2 WinDVDプレーヤ



3 拡張コントローラ



4 プロパティの設定

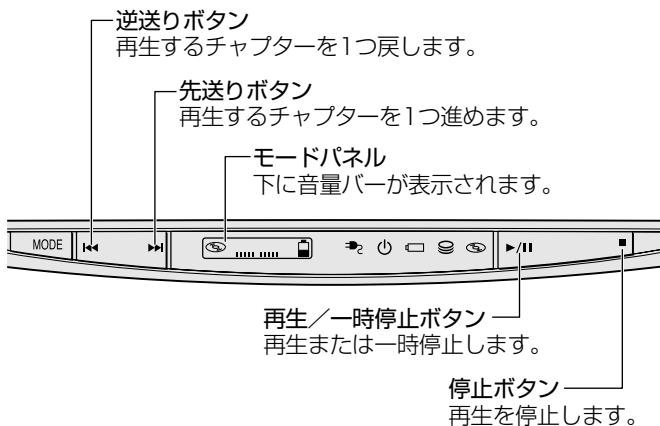
1 ビデオ表示ウィンドウの [プロパティ] ボタン () または WinDVD プレーヤーの [プロパティ] ボタン () をクリックする

[プロパティ] 画面が表示されます。

各タブで設定を行ってください。

5 オーディオ／アプリケーションボタンで操作する

DVD-Video の基本操作は、オーディオ／アプリケーションボタンを使うこともできます。



6 テレビに表示する

パソコン本体にテレビを接続して、DVD-Video の再生画面をテレビに表示させることができます。

テレビに表示するには、表示装置の切り替えが必要です。

表示装置の切り替えは、「InterVideo WinDVD」を起動する前に行ってください。

参照 テレビの接続、表示装置の切り替え 「4章 5」

ヘルプの起動方法

- ビデオ表示ウィンドウの [ヘルプ] ボタン (?) または WinDVD プレーヤーの左下部にある [ヘルプ] ボタン (?) をクリックする

参照 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先 『困ったときは 付録』

6 デジタルカメラの写真を編集/整理する

本製品には、画像を編集できるアプリケーション「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」が用意されています。

1 デジカメ Walker を使う

「デジカメ Walker」を使うと、写真などの画像を簡単に編集できます。編集した画像を使ってカードやWebページを作成したり、アルバムを作って画像を管理することもできます。

1 起動方法

- [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Ulead iPhoto Express] をクリックする



オプションパネル

コマンドによって表示が切り替わります。詳しい設定ができます。

サムネイルリストリップ

開いているイメージやプロジェクトのサムネイル（一覧表示画像）が表示されます。

作業領域

イメージやプロジェクトを見たり編集したりする場所です。

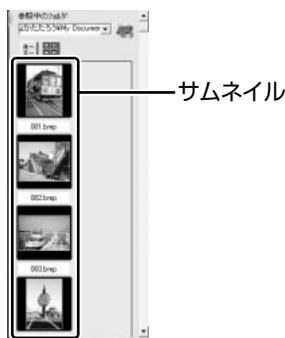
「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」を初めて起動したときは、[ユーザ登録] 画面が表示されます。

2 写真を編集する

ここでは、デジタルカメラで撮った写真をパソコンにファイルとして取り込んだ状態で、編集を加える場合について説明します。

デジタルカメラからパソコンへの取り込みからは、接続するデジタルカメラによって異なります。詳しくは、『デジタルカメラに付属の説明書』を確認してください。

- 1 [フォト] モード () でコマンドパネルから [フォト取り出し] → [マイコンピュータ] をクリックする
オプションパネルに [参照中のフォルダ] が表示されます。
- 2 ▾ をクリックし、表示されたメニューから編集する写真のある
フォルダをクリックする
オプションパネルにサムネイルが表示されます。
- 3 編集する画像のサムネイルをクリックし、[開く] ボタンをクリック
する



作業領域に画像が表示されます。

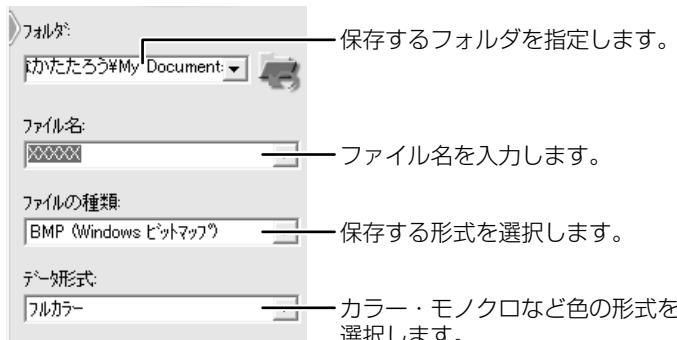
- 4 コマンドパネルから [編集] のメニューをクリックし、画像を加工
する
次のメニューから、画像にさまざまな効果を加えることができます。

調整	画像の切り抜き、サイズや明るさ／色の調整などを行います。
選択範囲	用途や形、色に基づいて範囲を選択します。
テキスト	画像に文字を書き込みます。文字にもいろいろな効果を選べます。
ペイント	筆で絵に色をつけるように、画像にさまざまな効果を加えます。
効果	うねりや絵画風の加工など、特殊効果を加えます。
装飾	縁取りやイラスト、影の追加などが行えます。

3 加工した画像を保存する

1 コマンドパネルから【共有】→【保存】をクリックする

オプションパネルに、保存についての項目が表示されます。



2 【保存】ボタンをクリックする

ヘルプの起動方法

1 「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」を起動後、メニューバーから【ヘルプ】→【Ulead iPhoto Express のヘルプ】をクリックする

PDFマニュアルの起動方法

1 【スタート】→【すべてのプログラム】→【デジカメ Walker】→【Screenbook】をクリックする

7 動画を編集する

本製品には、画像を編集できるアプリケーション「MotionDV STUDIO」が用意されています。

1 MotionDV STUDIO を使う

MotionDV STUDIO を使うと、デジタルビデオカメラの画像を編集できます。

デジタルビデオカメラを i.LINK (IEEE1394) コネクタに接続して、撮影した画像をパソコンに取り込みます。特殊効果やタイトル、BGMなどをつけて編集し、さまざまな形式で保存できます。

1 起動方法

- [スタート] → [すべてのプログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO] → [MotionDV STUDIO] をクリックする
はじめて「MotionDV STUDIO」を起動したときは、「Panasonic MotionDV STUDIO 使用許諾書」画面が表示されます。契約内容を確認のうえ、[同意します] ボタンをクリックしてください。



2 デジタルビデオカメラを接続する

デジタルビデオカメラを使用する場合、次の手順で正しく接続されているかどうか、確認してください。

1 接続の確認

- 1 i.LINK (IEEE1394) ケーブルをパソコン本体に接続する
参照▶ i.LINK ケーブルの接続 「4章 7」
- 2 ケーブルのもう一方のプラグをデジタルビデオカメラに接続する
- 3 デジタルビデオカメラの電源を入れる
[デジタルビデオデバイス] 画面が表示されます。
- 4 [ビデオの編集 Panasonic MotionDV STUDIO 使用] が選択されていることを確認し①、[OK] ボタンをクリックする②



「MotionDV STUDIO」が起動します。

ヘルプの起動方法

- 1 「MotionDV STUDIO」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [ヘルプ] をクリックする

PDFマニュアルの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO] → [取扱説明書] をクリックする

4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。プリンタやスキャナ、外付けハードディスクドライブ、PC カード、増設メモリなど本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器について、その取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1	周辺機器について	132
2	フロッピーディスクドライブを接続する	134
3	PC カードを接続する	140
4	USB 対応機器を接続する	143
5	テレビを接続する	145
6	CRTディスプレイを接続する	149
7	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	150
8	光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する	152
9	その他の機器を接続する	155
10	LANへ接続する	159
11	メモリを増設する	162

1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ ● ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- PC カード ● モデム（本製品では内蔵）
- スキャナ ● フロッピーディスクドライブ（本製品では同梱）
- マウス ● デジタルカメラ ● 増設メモリ

参照 ➤ 周辺機器の接続場所は「1章 1」

周辺機器によってインターフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。

インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。

- ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コードのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。

- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

1) 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

1 ドライバをインストールする

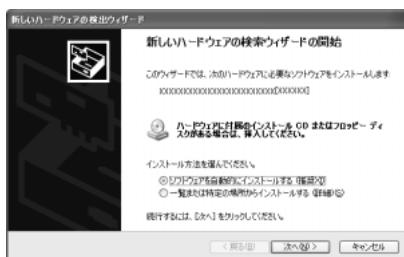
周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】

Windowsには、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。

周辺機器を接続するとWindowsがドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかると、自動的にインストールを開始します。

【新しいハードウェアの検出ウィザード】画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】

【ハードウェアの追加ウィザード】を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

【ハードウェアの追加ウィザード】は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

2 フロッピーディスクドライブを接続する

本製品では、同梱のUSB接続タイプのフロッピーディスクドライブを使用できます。フロッピーディスクドライブを取り付けることにより、フロッピーディスクを使用して、データを保存したり、ほかのパソコンとデータをやり取りすることができます。

⚠ 注意

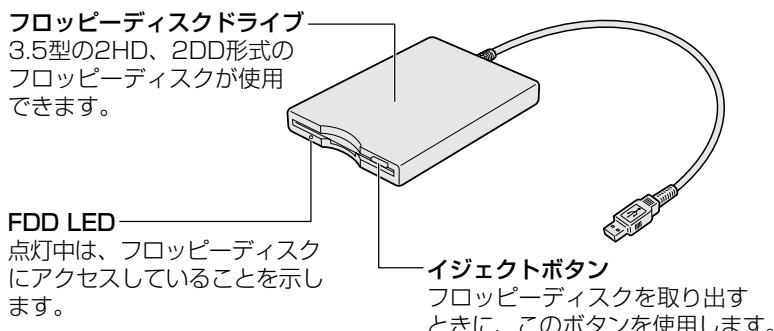
- パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（FDDのLEDが点灯しているとき）に電源を切ったり、USBケーブルを抜いたりイジェクトボタンを押したりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。

お願ひ フロッピーディスクドライブの使用にあたって

- フロッピーディスクドライブは、必ず水平に置いて使用してください。また、フロッピーディスクドライブの上にものを置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。
- フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。また、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出してください。

1 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブについて説明します。フロッピーディスクドライブの取り付け／取りはずしについては、「本章4」を確認してください。



1 常にパソコンをフロッピーディスクから起動する場合

次の設定を行ってください。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [東芝 HW セットアップ] をクリックする
- 3 [OS の起動] タブで [OS の起動] を [FDD] が最初になるように設定する
- 4 [OK] ボタンをクリックする

2 一時にパソコンをフロッピーディスクから起動する場合

- 1 **F12** キーを押しながら、電源スイッチを押す
[起動ドライブ選択] 画面が表示されます。
- 2 **←** または **→** キーで、中央のフロッピーディスクのアイコンを選択し、**Enter** キーを押す

2) フロッピーディスク

フロッピーディスクには、文書や表などのデータを保存することができます。

1 使用できるフロッピーディスクの種類

本製品で使用できるフロッピーディスクには 3 種類あり、それぞれの機能は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1 枚に保存できる容量	読み出し / 書き込み	フォーマット
2DD タイプ	720KB	可	不可
2HD タイプ	1.2MB	可	不可
2HD タイプ	1.44MB	可	可

参照 ➔ フォーマットについて「本節 ③」

2 フロッピーディスクの内容を確認する

- 1 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

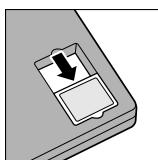
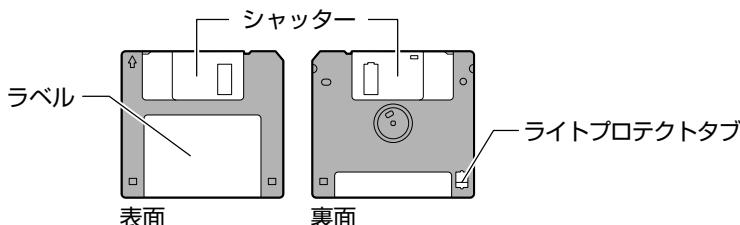
2 [3.5インチ FD (A:)] をクリックする

[3.5インチ FD (A:)] 画面が開き、セットしたフロッピーディスクの内容が表示されます。

3 フロッピーディスクを使う前に

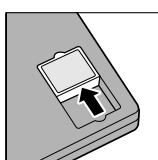
1 ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを動かすことにより、誤ってデータを消さないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクは、データの書き込みはできず、読み取りしかできません。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りも可能です。

2 フォーマットとは

新品のフロッピーディスクは、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの起動するのに必要な基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。

お願い

- フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

次のフロッピーディスクは、フォーマットしてから使用してください。

- フォーマットされていないもの
- Windows以外のシステムでフォーマットされたもの

フォーマットには、「クイックフォーマット」と「MS-DOSの起動ディスクを作成する」というオプションがあります。必要に応じて設定してください。

オプションを何も設定しないでフォーマットを開始すると、通常のフォーマットが行われます。

すべてのファイルが消去され、基本情報が書き込まれます。ディスクの損傷があるかどうかもチェックされます。

【クイックフォーマット】

以前にWindowsでフォーマットしたことのあるフロッピーディスクに実行できます。クイックフォーマットを行うと、すべてのファイルが消去されますが、基本情報の書き込みなどは行われません。フロッピーディスクが壊れているおそれのある場合は、クイックフォーマットは行わないでください。

【MS-DOSの起動ディスクを作成する】

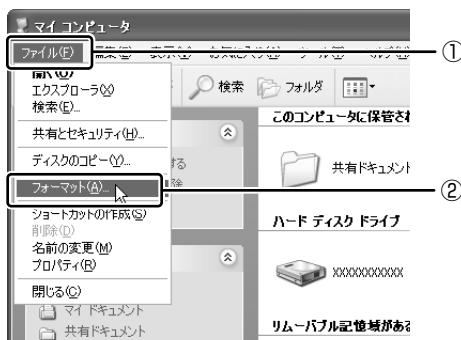
フォーマットまたはクイックフォーマットを行った後、MS-DOSの起動ディスクとして必要な情報をフロッピーディスクに書き込みます。作成を行うと、ファイルや基本情報などのすべての情報が消去されます。

3 フォーマット方法

Windowsでのフォーマット方法を簡単に説明します。詳細については、《サイバーサポート》を確認してください。

- 1 フロッピーディスクドライブに、フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする
[マイコンピュータ] 画面が表示されます。
- 3 [ 3.5インチ FD (A:)] をクリックする
[3.5インチ FD (A:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

- 4 メニューバーの【ファイル】をクリックし①、表示されたメニューから【フォーマット】をクリックする②
アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



【フォーマット 3.5 インチ FD (A:)】画面が表示されます。

- 5 必要に応じて【フォーマットオプション】を設定し、【開始】ボタンをクリックする

クリックフォーマットを行う場合は、【クリックフォーマット】をチェックしてから、【開始】ボタンをクリックしてください。

メッセージが表示されます。

- 6 メッセージの内容を確認し、【OK】ボタンをクリックする
フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。初めてフォーマットするフロッピーディスクの場合、多少時間がかかります。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

- 7 メッセージの内容を確認し、【OK】ボタンをクリックする
これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順 5 から実行します。

フォーマットを終了する場合は、【フォーマット 3.5 インチ (A:)】画面で【閉じる】ボタン (X) をクリックしてください。

フロッピーディスクドライブの取り扱い

市販のクリーニングディスクを使って、1ヶ月に1回を目安にクリーニングしてください。

フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。

フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作成して保管するようにしてください。
- フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめ了承してください。
- シャッターポートを開けて磁性面を触らないでください。
汚れると使用できなくなります。
- スピーカーなど強い磁気を発するものに近づけないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に置かないでください。
- 使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環境	使用時	保管時
温度	5~35°C	4~53°C

- ラベルは正しい位置に貼ってください。
貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。
- 3.5型フロッピーディスクは当社の次の製品を使用してください。
他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかったり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

製品番号	形式
M4293	2HD形式
M4216	2DD形式

3 PC カードを接続する

目的に合わせた PC カードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PC カードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- SCSI カード
- 無線 LAN カード
- Bluetooth PC カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

1) PC カードを使う前に

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。

使用している PC カードがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II / III 対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

使用するタイプによって取り付け可能なスロットは異なりますので、よく確認してください。

スロット 0 に TYPE III の PC カードを取り付けたときは、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

使用スロット：1（上側）	TYPE III
使用スロット：0（下側）	TYPE II / III

△ 注意

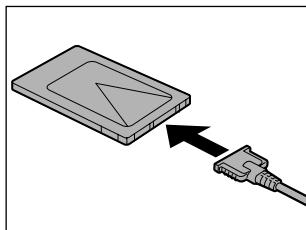
- ・ ホットインサーションに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- ・ PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- ・ PC カードの使用停止は必ず行なってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2 PC カードを使う

PC カードを使う場合、パソコン本体の PC カードスロットに PC カードを取り付けてください。

1 取り付け

1 PC カードにケーブルを付ける

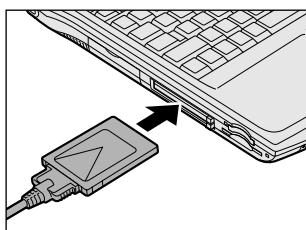


SCSI カードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

4章

周辺機器の接続

2 上下や方向を確認し、PC カードを挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PC カードを使用できない、または PC カードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

お願い

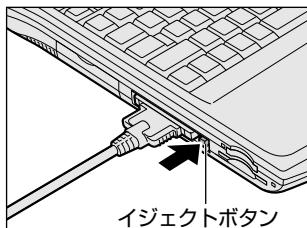
- 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PC カードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする

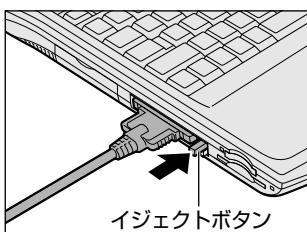
-
- ③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、【閉じる】ボタン（）をクリックする

2 取りはずしたいカードのイジェクトボタンを押す



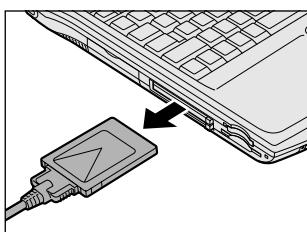
イジェクトボタンが出てきます。

3 もう一度取りはずしたいカードのイジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出でます。

4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを収納します。

4 USB 対応機器を接続する

ユーズビー USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

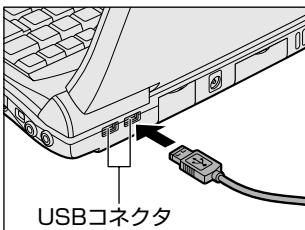
- 同梱のフロッピーディスクドライブ
- USB 対応マウス ● USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ ● USB 対応ターミナルアダプタ など

お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- 今後出荷される USB 対応機器については、動作確認ができていないためすべての機器の動作を保証することはできません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

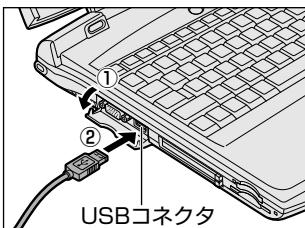
1 取り付け

1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む 【背面】



コネクタの向きを確認して差し込んでください。

【左側面】



コネクタカバーを開き①、USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込んでください②。

2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 取りはずし

1 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

5 テレビを接続する

本製品に用意されているビデオ出力端子とテレビをケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

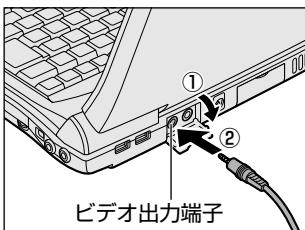
同梱のビデオケーブルを使用してください。

本製品のビデオ出力端子は、LINE OUT 端子を兼ねています。

参照 LINE OUT 端子について 「本章 9-③」

1 取り付け

- 1 コネクタカバーを開き①、ビデオケーブルのプラグ（ミニジャックタイプ）をパソコン本体のビデオ出力端子に差し込む②



- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む
ビデオケーブルの音声端子（赤：音声右、白：音声左）、映像端子（黄）をテレビの入力端子側で対応している端子にそれぞれ接続してください。

2 テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。データが消失するおそれがあります。
 - ・データの読み込みや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間

【方法 1—画面のプロパティで設定する】

- 1 [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリックする

2 [画面] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする

4 [nView] タブで次のいずれかに設定する



● 内部液晶ディスプレイだけに表示

- ① [nView モード] で [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [デジタル ディスプレイ] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

● 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示

- ① [nView モード] で [クローン] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [ディスプレイ] で [nView ディスプレイ 2 : アナログディスプレイ] を選択する
- ③ [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [TV] を選択する
- ④ [適用] ボタンをクリックする
- ⑤ もう 1 度 [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [詳細] を選択する
- ⑥ テレビの形式を選択する
国内のテレビの場合は [NTSC-J] です。
- ⑦ [OK] ボタンをクリックする

● テレビだけに表示

- ① [nView] モードで [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [TV] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

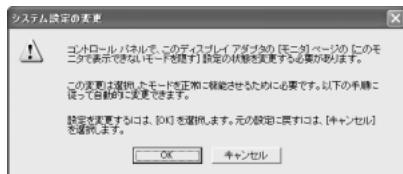
5 [OK] ボタンをクリックする

6 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

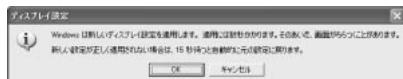
【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

● [システム設定の変更] 画面



● [ディスプレイ設定] 画面



● [ディスプレイ設定の確認] 画面



【方法2—**[Fn]+[F5]**キーを使う】

[Fn]キーを押したまま**[F5]**キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。**[F5]**キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、**[Fn]**キーをはなすと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置がLCD（パソコン本体のディスプレイ）以外に設定されている場合、**[Fn]+[F5]**キーを3秒間押し続けると、表示装置がLCDに戻ります。これは最初に**[Fn]+[F5]**キーを押したときのみ有効です。



- LCDパソコン本体のディスプレイだけに表示
- LCD／CRTパソコン本体のディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
- CRTパソコン本体のディスプレイとCRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、CRTディスプレイだけに表示されます。
パソコン本体のディスプレイには何も表示されません。
- LCD／TVパソコン本体のディスプレイとテレビの同時表示
- TVテレビだけに表示
テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
パソコン本体のディスプレイには何も表示されません。

3 取りはずし

- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオケーブルを抜く

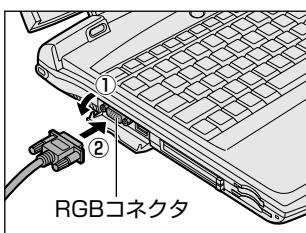
6 CRT ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、CRT ディスプレイに表示させることができます。

パソコンの電源を切ってから接続してください。

1 接続

1 コネクタカバーを開き①、CRT ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む②



CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。

2 表示装置を切り替える

CRT ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- CRT ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

省電力機能により CRT ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります、故障ではありません。

【切り替え方法】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合を参考に [nView] タブの [デバイス設定] で「アナログ ディスプレイ」を選択してください。

テレビ表示について「本章 5-2」

3 表示について

CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

ビデオモードについて「付録 2」

7 i.LINK(IEEE1394)対応機器を接続する

アイリンク アイトリブルーイチサンキューヨン

i.LINK(IEEE1394)コネクタ(i.LINKコネクタとよびます)に接続します。

i.LINK(IEEE1394)対応機器(i.LINK対応機器とよびます)には次のようなものがあります。

- i.LINK対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK対応ハードディスクドライブ
- i.LINK対応MOドライブ

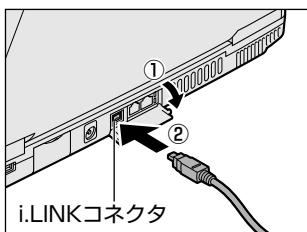
i.LINK対応機器の詳細については、『i.LINK対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電気的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電気的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他のi.LINK対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK対応機器を使用するには、システム(OS)および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべてのi.LINK対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべてのi.LINK対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの(S100、S200、S400対応)を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードとACアダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

- 1 コネクタカバーを開き①、ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む②



コネクタの向きを確認して差し込んでください。

- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

- 1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

*デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

- 2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2台で通信ができます。ネットワークの設定については、《サイバーサポート》を確認してください。

- 1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

*機種によっては接続できません。

8 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する

次のような機器（光デジタル対応機器とよびます）を、光デジタルオーディオ出力端子に接続して使用できます。

- MD プレーヤ
- MD コンポ
- 光入力スピーカ
- DAT プレーヤ
- 光入力付きアンプ など

本製品の光デジタルオーディオ出力端子は、ヘッドホン出力端子を兼ねています。

参照 ヘッドホン出力端子への接続について 「本章 9-②」

お願い 操作にあたって

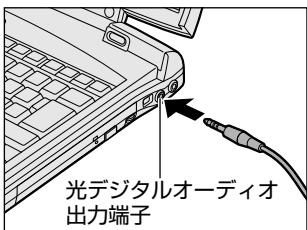
- すべての光デジタル対応機器の動作確認は行なっておりません。
したがって、すべての光デジタル対応機器の動作は保証いたしかねます。
- 光デジタル対応機器を接続するためには市販のケーブルが必要です。
パソコン本体の端子は光ミニプラグ、光デジタル対応機器の端子は光ミニプラグまたは光角形プラグです。
ご使用の機器にあったケーブルをご購入ください。
- 光デジタルオーディオ出力端子から出力される音声は、サンプリング周波数が 48kHz に固定されています。そのため、このサンプリング周波数に対応していない光デジタル対応機器では動作しません。
- 光デジタルオーディオ出力端子からの音声をコピーする場合、次の内容をよくお読みください。
 - ・ お客様が光デジタルオーディオ出力端子を使用して他人の著作物を録音、複製などを行う場合は、個人的に使用する目的でのみ行うことができます。また著作物によっては、一切の録音、複製などができないものがあります。これらに反して録音、複製などを行うことは、著作権法に違反する場合がありますので、光デジタルオーディオ出力端子を使用して録音、複製などを行う場合には、著作権法を遵守のうえ、適切にご使用ください。
 - ・ お客様がソフトウェアの標準設定を変更して光デジタルオーディオ出力端子をご使用された場合、著作権者により「複製自由」とされた著作物であっても、「1 回限りの複製」しかできない場合があります。
- 複製が禁止されている著作物は、再生のみ可能です。録音／複製はできません。
- Windows を起動せずにオーディオ／アプリケーションボタンで音楽 CD を操作しているときは、パソコン本体の電源が入っていません。
その場合は、光デジタルオーディオ出力端子から出力されません。
- 「InterVideo WinDVD」で「コピー禁止」の DVD を再生した場合、著作権保護機能 (SCMS に準拠) を持つプレーヤで CD や音楽ファイルを再生した場合、録音できない場合があります。

SCMS (シリアル・コピー・マネージメント・システム) とは、デジタル音源か

らのコピーを一世代のみに制限する技術です。例えば、音楽 CD から MD に録音することはできますが、録音した MD からさらに他の MD に録音することはできません。

1 取り付け

- 1 デジタルオーディオケーブルのプラグをパソコン本体の光デジタルオーディオ出力端子に差し込む



プラグの形状を確認して差し込んでください。

- 2 デジタルオーディオケーブルのもう一方のプラグを光デジタル対応機器に差し込む

2 取りはずし

- 1 パソコン本体と光デジタル対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 光デジタル対応機器への録音

光デジタルオーディオ出力端子から、光デジタル対応機器（MD コンポなど）への録音方法について説明します。

- 1 光デジタル対応機器の電源を入れる

- 2 光デジタル対応機器を録音待機機状態にする

詳細は、『光デジタル対応機器に付属の説明書』を確認してください。

- 3 パソコンで録音したい音楽などを再生する

次の場合に録音ができます。

- 「Windows Media Player」など Windows に用意されているプレーヤなどのプレーヤで Wave ファイル、MIDI ファイル、ムービーファイル (AVI／MPG)、音楽 CD などを再生する場合
- 「InterVideo WinDVD」で「コピー可」の DVD を再生する場合

光デジタル対応機器にシンクロ録音機能がある場合、録音が自動的に開始されます。

シンクロ録音機能がない場合は、光デジタル対応機器側で録音を開始し、パソコン側で音楽などの再生を開始してください。

シンクロ録音機能を使用する場合は、[コントロールパネル] → [関連項目] の [コントロールパネルのその他のオプション] → [ヤマハ AC-XG] をクリックし、[デジタル出力] タブで [オン (デジタルソースのみ)] をチェックしてください。

シンクロ録音機能とは、光デジタル対応機器がパソコン上で音楽が再生されたことを自動的に認識し、録音を開始する機能です。

9 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1) マイクロホン

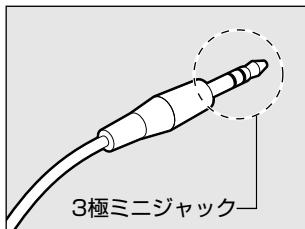
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。本製品では、モノラル録音のみできます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

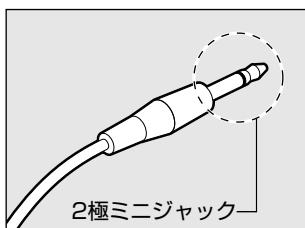
 サウンド機能について「1章 8」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



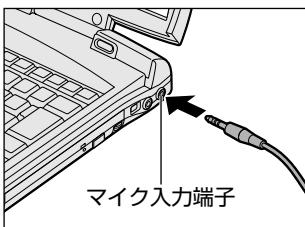
プラグは3.5mm ϕ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



3.5mm ϕ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを引き抜きます。

2 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
 - ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
 - ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows の「マスタ音量」で調節してください。

マスタ音量は、次のように操作して起動します。

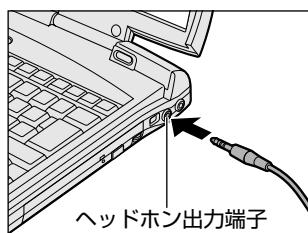
- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

本製品のヘッドホン出力端子は、光デジタルオーディオ出力端子を兼ねています。

参照 光デジタルオーディオ出力端子について「本章 8」

1 接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを引き抜きます。

3 オーディオ機器

LINE OUT 端子と LINE IN 端子には、オーディオ機器を接続できます。

本製品の LINE OUT 端子は、ビデオ出力端子を兼ねています。

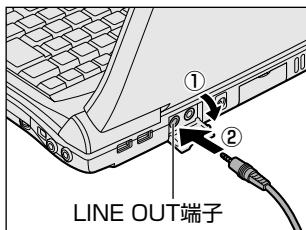
参照 ➤ ビデオ出力端子について 「本章 5」

1 LINE OUT 端子への接続

同梱のビデオケーブルをオーディオケーブルとして使用してください。

同梱のビデオケーブル以外のケーブルを使った場合、正常に信号が出力されません。

- 1 コネクタカバーを開き①、ビデオケーブルのプラグをパソコン本体の LINE OUT 端子に差し込む②



コネクタの形状を確認して差し込んでください。

取りはずすときは、LINE OUT 端子からビデオケーブルのプラグを引き抜きます。

- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器の LINE IN 端子に差し込む

ビデオケーブルの音声端子（赤：音声右、白：音声左）をオーディオ機器の LINE OUT 端子側で対応している端子にそれぞれ接続してください。

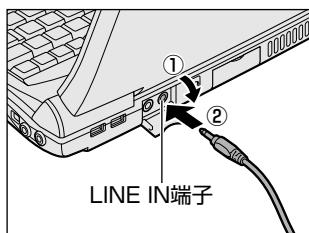
ビデオケーブルの映像端子（黄）は使用しません。

2 LINE IN端子への接続

市販のオーディオケーブルを使用してください。

オーディオケーブルのプラグは、直径3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

- 1 コネクタカバーを開き①、ケーブルのプラグをパソコン本体のLINE IN端子に差し込む②



コネクタの形状を確認して差し込んでください。

- 2 ケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器のLINE OUT端子に差し込む

10 LANへ接続する

本製品には、ブロードバンド対応の LAN 機能が内蔵されています。

LAN コネクタに ADSL モデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

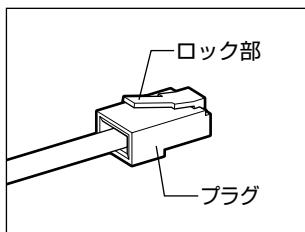
また、本製品の LAN 機能は、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet／Ethernet を自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) で使用するときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。

10BASE-T 規格 (10Mbps) で使用するときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。

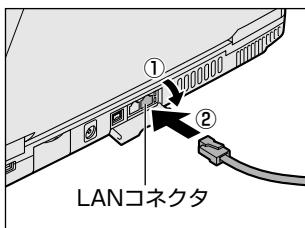
カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したものです。カテゴリ 1 ~ 5 まであり、数字が高いほど品質が高くなります。



LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 コネクタカバーを開き①、LAN ケーブルのプラグを背面の LAN コネクタに差し込む②



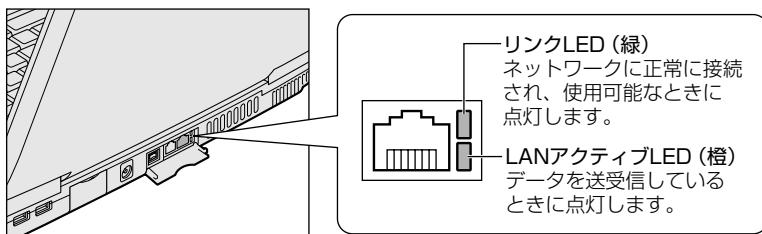
ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

3 LAN ケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、《サイバーサポート》を確認してください。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LAN コネクタの脇には、LAN インタフェースの動作状態を示す 2 つの LED があります。



3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

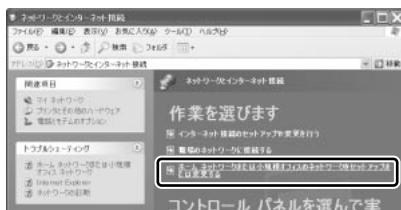
購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windows の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

△ 注意

ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。

1 [コントロールパネル] を開き、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする

2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

11 メモリを増設する

本製品には2つの増設メモリスロット（スロット0とスロット1）があり、増設メモリスロット1つにつき256MBまでの増設メモリを取り付けることができます。スロット0にはすでにメモリが取り付けられています。増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

⚠ 警告

本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると危険です。

⚠ 注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 次のような場合、増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。やけど、感電、故障のおそれがあります。
 - ・スタンバイ中
 - ・LANのウェイクアップ機能を使用しているとき
 - ・マルチドライブの電源をONにしているとき
 - ・電源を切った直後電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。
- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。

お願い

- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分だけではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触るだけで、静電気を防ぐことができます。

【エラーメッセージについて】

仕様に合わない増設メモリを取り付けると、モードパネルにメッセージが表示されます。また、パソコンは起動しません。

スロット0のエラーメッセージ

モードパネルに次のように表示されます。

MEM0 Error

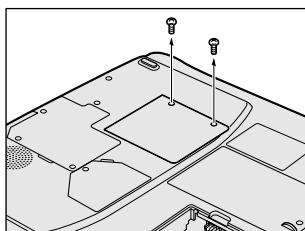
スロット1のエラーメッセージ

モードパネルに次のように表示されます。

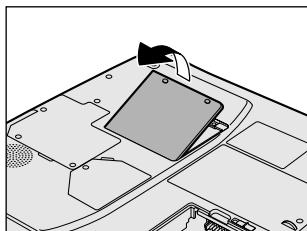
MEM1 Error

1 取り付け

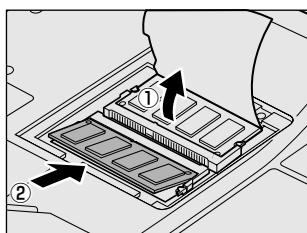
- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
 - 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
 - 3 パソコン本体を裏返して、バッテリパックを取りはずす
- 参照 ➤ バッテリパックについて「2章 1-③」
- 4 増設メモリカバーのネジ2本をはずす



5 増設メモリカバーをはずす



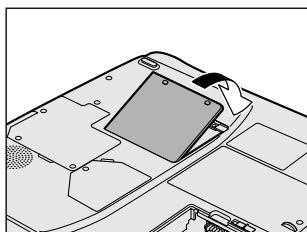
6 インシュレータ（ビニールのカバー）をめくって①、増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに差し込む②



増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかりと差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

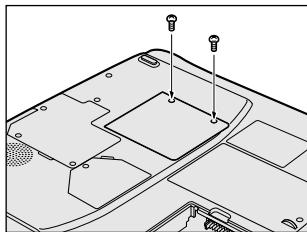
7 コネクタ部を支点として、メモリを下に押す

8 増設メモリカバーをはめる



増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

9 手順 4 ではずしたネジ2本でとめる



10 バッテリパックを取り付ける

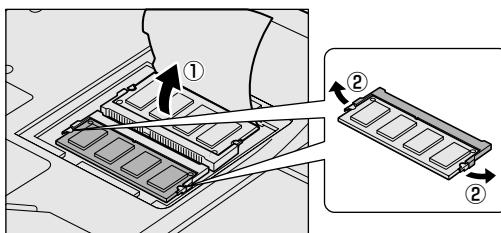
参照 ➤ バッテリパックについて「2章 1-③」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 ➤ メモリ容量の確認について「本項 3」

2 取りはずし

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
 - 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
 - 3 パソコン本体を裏返して、バッテリパックを取りはずす
- 参照 ➤ バッテリパックの交換「2章 1-③」
- 4 増設メモリカバーのネジ 2 本をはずす
 - 5 増設メモリカバーをはずす
 - 6 インシュレータ（ビニールのカバー）をめくって①、フックを解除する②



熱くないことを確認してから行ってください。

7 増設メモリをパソコン本体から取りはずす

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

8 増設メモリカバーをはめる

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

9 手順 4 ではずしたネジ 2 本でとめる

10 バッテリパックを取り付ける

参照 ➤ バッテリパックの交換「2章 1-③」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックする
- ② [ヘルプトピックを選びます] の [東芝 PC 診断ツール] をクリックする
- ③ 左画面の [東芝 PC 診断ツール] をクリックする
- ④ [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ⑤ [メモリ] の数値を確認する

5章

アプリケーションを追加する／削除する

本製品に、新たにアプリケーションを追加する方法
や、削除する方法について説明しています。

-
- 1 アプリケーションを追加（インストール）する 168
 - 2 アプリケーションを削除（アンインストール）する 169

1 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。

お願い

- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

[プログラムの追加と削除] からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で [プログラムの追加と削除] を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合もあります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたは CD-ROM をセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 [プログラムの追加] ボタン () をクリックする
- 4 [CD またはフロッピー] ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

2 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーションCDから、再インストールして使用することができます。

参照 ➤ 再インストールについて『困ったときは 4 章』

アプリケーションを削除する方法を説明します。

アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

- 1 [コントロールパネル]を開き、[プログラムの追加と削除]をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除]ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。

6 章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 172
 - 2 東芝HWセットアップを使う 173

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティを使用します。

Windows 上のユーティリティには、「東芝省電力ユーティリティ」、「東芝 HW セットアップ」、「東芝コントロール」などがあります。

参照 東芝省電力ユーティリティについて「2章 2」

参照 東芝コントロールについて「1章 3」

本章では、「東芝 HW セットアップ」について説明します。

2 東芝 HW セットアップを使う

東芝 HW セットアップを使い、Windows 上でハードウェアの設定を変更できます。パスワード、OS の起動、LAN 機能などのさまざまな項目について設定ができます。複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

1 東芝 HW セットアップの起動と使用

東芝 HW セットアップの操作について、説明します。

1 起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [東芝 HW セットアップ] をクリックする

2 使用方法

■ [全般] タブ ■

セットアッププログラムのバージョンと日付などを表示します。



【標準設定】

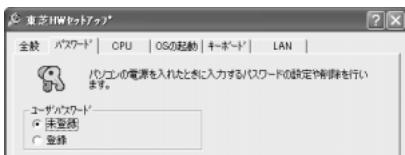
このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」の [パスワード] タブ以外のタブの項目が購入時の設定状態に戻ります。

【バージョン情報】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」のバージョン情報を表示します。

■ [パスワード] タブ ■

パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの登録や削除を行います。



【パスワードの登録】

- ① [ユーザーパスワード] の [登録] をチェックする
- ② [ユーザーパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「* * * * *」(アスタリスク)で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [] : : . / (スペース)
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none">・全角文字 (2バイト文字)・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号など・単独のキーで入力できない (入力するときにShiftキーなどを使用する) 文字 【例】 (バーチカルライン) 、 & (アンド) 、 ~ (チルダ) など・¥ (エン) [¥] キーや [~] キーを押すと¥が入力されます。	

- ③ [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

登録したパスワードは、忘れたときのために必ず控えておいてください。

【 パスワードの削除 】

- ① [ユーザーパスワード] の [未登録] をチェックする
- ② [ユーザーパスワード] 画面の [パスワードの入力] に登録してあるパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードが削除されます。
- ③ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードの入力エラーが 3 回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう 1 度設定を行ってください。

【 キーフロッピーディスクの作成 】

キーフロッピーディスクとは、パスワードを忘れた場合に使用するフロッピーディスクのことです。キーフロッピーディスクを使用すると、登録したパスワードの解除ができます。

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの 2DD または 2HD (1.44MB) フロッピーディスクが必要です。あらかじめ用意してください。

キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよく確認してから、使用してください。

次のように操作して、キーフロッピーディスクを作成します。

- 1 電源を切る**
- 2 フロッピーディスクドライブを接続し、書き込み可能なフロッピーディスクをセットする**
- 3 電源を入れる**
モードパネルに「Password =」と表示されます。
- 4 パスワードを入力する**
- 5 [Tab]キーを押す**
モードパネルに次のメッセージが表示されます。

Insert FD
Ready (Y/N)

- 6 [Y]キーを押す**
モードパネルに次のメッセージが表示されます。

Remove FD
press key

7 フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを抜いてから、何かキーを押す

画面にメッセージが表示され、Windows が起動します。

【 パスワードを忘ってしまった場合 】

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除ができます。

キーフロッピーディスクを作成していなかったときにパスワードを忘ってしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。また、そのとき身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

1 「Password =」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、**Enter**キーを押す

パスワードが解除され、システムが起動します。

■ [CPU] タブ ■

CPU の操作について設定します。

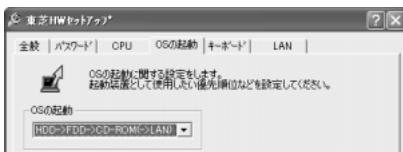


【 CPU 周波数の設定 】

CPU 周波数を、「ダイナミック切替モード」、「常時高速モード」、「常時標準モード」のいずれかから選択できます。

■ [OS の起動] タブ ■

パソコンの起動について設定します。



【 OS の起動 】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。

通常は [HDD → FDD → CD-ROM (→ LAN)] に設定してください。

■ [キーボード] タブ ■

スタンバイ状態からの復帰方法について設定します。



【キーボードによるスタンバイ復帰】

この機能を有効にすると、スタンバイ時にどれかキーを押して復帰させることができます。

■ [LAN] タブ ■

LAN機能について設定します。



【LANのウェイクアップ】

LANのウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。

LANのウェイクアップ機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。

【内蔵LAN】

内蔵LANを使用するかどうかを設定します。

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 [東芝HWセットアップ] を起動後、画面右上の ? をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

付録

本製品について、外形や各インターフェースなどの
ハードウェア仕様や、技術基準適合について記して
います。

-
- 1 アプリケーション一覧 180
 - 2 本製品の仕様 182
 - 3 各インターフェースの仕様 186
 - 4 技術基準適合について 190

1 アプリケーション一覧

本製品にはさまざまなアプリケーションが用意されています。

複数のユーザで使用できるWindows XPでは、システム全体を変更できるユーザ（コンピュータの管理者）と、できる操作に制限のあるユーザ（制限付きアカウント）をあらかじめ設定しますが、プレインストールされているアプリケーションの中には、ログオンするユーザによって使用に制限がある場合があります。

参照 ➤ 複数のユーザで使用する場合について『基本をマスター 4章』

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
簡単インターネット	○ *1		○	○
The 翻訳インターネット	○		○	○
内蔵モデム用 地域選択ユーティリティ		○		○ *2
東芝コントロール (メール着信機能)	○		○	
東芝コントロール (ボタン機能)		○	○	
東芝コントロール (モードパネル)		○		
LIVE MEDIA PLAYER	○		○	○
Drag'n Drop CD	○		○ *3	○
LaLaVoice	○ *4		○	○
デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)		○		
MotionDV STUDIO		○		○ *2
InterVideo WinDVD	○			○
プロアトラス 2002 for TOSHIBA		○	○	○ *2
駅すぱあと	○		○	
筆ぐるめ		○		○ *2
Norton AntiVirus 2002	○		○	○
東芝 PC 診断ツール		○		○ *2
東芝 HW セットアップ	○			— *5
東芝省電力ユーティリティ		○	○	— *5
Fn-esse	○		○	○

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
いきなりインターネット (infoPepper)		○		○ *2
AOL	○			○
DION 簡単設定ツール		○	○	○ *2
OCN サインアップ		○		
@nifty でインターネット		○		○ *2
ODN ダイヤルアップ スタートーキット	○		○ *6	○
DreamNet		○	○	
BIGLOBE サインアップナビ	○			○
TTNet	○		○	○
eAccess	○		○	○

* 1 制限付きアカウントはダイヤル方式の設定はできません。

* 2 コンピュータ管理者（インストールしたユーザ）以外も、デスクトップまたはスタートメニューにアイコンがありますが、使用できるユーザはコンピュータ管理者のみです。

* 3 CDへの書き込みは、複数のユーザが同時にすることはできません。

* 4 制限付きアカウントでのご使用は動作保証外となります。

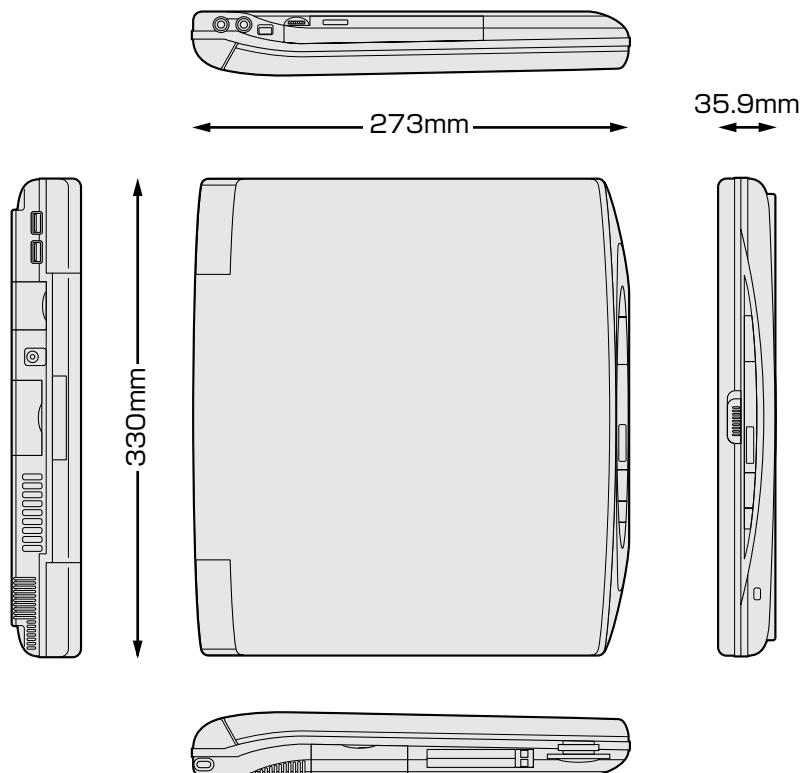
* 5 コントロールパネルにはアイコンが表示されます。

* 6 [ユーザアカウント] のオプションにて [ユーザの簡易切り替えを使用する] を設定している場合のみ、可能です。

2 本製品の仕様

1 外形寸法図

※数値は突起部を含みません。



2 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40×25字	8×8	16/256K	70
2,3		80×25字	8×8	16/256K	
0*,1*		40×25字	8×14	16/256K	
2*,3*		80×25字	8×14	16/256K	
0+,1+		40×25字	8(9)×16	16/256K	
2+,3+		80×25字	8(9)×16	16/256K	
4,5	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	4/256K	70
6		640×200ドット	8×8	2/256K	
7	VGA テキスト	80×25字	8(9)×14	モノクロ	60
7+		80×25字	8(9)×16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	16/256K	60
E		640×200ドット	8×8	16/256K	
F		640×350ドット	8×14	モノクロ	
10		640×350ドット	8×14	16/256K	
11		640×480ドット	8×16	2/256K	
12		640×480ドット	8×16	16/256K	
13		320×200ドット	8×8	256/256K	70

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	800×600 ドット	—	256/256K	60/75/ 85/100
—		1024×768 ドット	—	256/256K	
—		1280×1024 ドット	—	256/256K	
—		1400×1050 ドット	—	256/256K	
—		1600×1200 ドット*1	—	256/256K	
—		1920×1440 ドット*1	—	256/256K	60/75
—		2048×1536 ドット*1	—	256/256K	60
—		800×600 ドット	—	64K/64K	60/75/ 85/100
—		1024×768 ドット	—	64K/64K	
—		1280×1024 ドット	—	64K/64K	
—		1400×1050 ドット	—	64K/64K	
—		1600×1200 ドット*1	—	64K/64K	
—		1920×1440 ドット*1	—	64K/64K	60/75
—		2048×1536 ドット*1	—	64K/64K	60
—	XGA グラフィックス	800×600 ドット	—	16M/16M	60/75/ 85/100
—		1024×768 ドット	—	16M/16M	
—		1280×1024 ドット	—	16M/16M	
—		1400×1050 ドット	—	16M/16M	
—		1600×1200 ドット*1	—	16M/16M	
—		1920×1440 ドット*1	—	16M/16M	60/75
—		2048×1536 ドット*1	—	16M/16M	60

* 1 : LCD の場合は、実際の画面（1400 × 1050）内に、仮想スクリーン表示します。

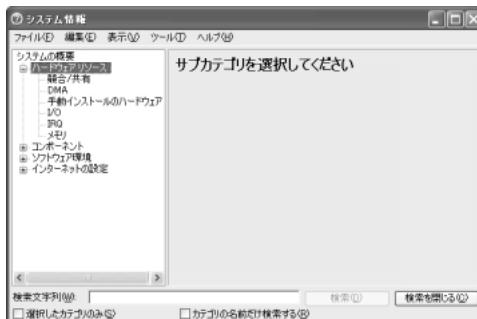
注) 一部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニタでは使用できません。

3 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/O ポートマップ、IRQ 使用リソース、DMA 使用リソースは次の方法で確認できます。

使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする



メモリマップ : [メモリ]

I/O ポートマップ : [I/O]

IRQ 使用リソース : [IRQ]

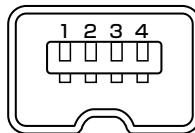
DMA 使用リソース : [DMA]

3 各インターフェースの仕様

1 i.LINK (IEEE1394) インタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TPB-	ストローブ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
2	TPB+	ストローブ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
3	TPA-	データ受信／ストローブ送信 (2対の差動信号)	
4	TPA+	データ受信／ストローブ送信 (2対の差動信号)	

コネクタ図

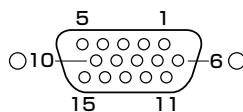


信号方向 (I) : パソコン本体への入力
信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

2 RGBインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	ID2	モニタID2	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	Reserved	予約	
10	GND	信号グランド	
11	IDO	モニタID	
12	SDA	SDA通信信号	
13	-CHSYNC	水平同期信号	O
14	-CVSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	

コネクタ図



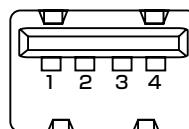
高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向（I）：パソコン本体への入力
 信号方向（O）：パソコン本体からの出力

3 USBインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	

コネクタ図



信号名：ーがついているのは、負論理値の信号です

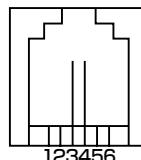
信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

4 モデムインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	-	ノーコンタクト	
2	-	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	-	ノーコンタクト	
6	-	ノーコンタクト	

コネクタ図



信号名：ーがついているのは、負論理値の信号です

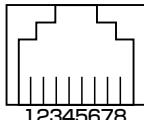
信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

5 LANインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TX	送信データ (+)	0
2	-TX	送信データ (-)	0
3	RX	受信データ (+)	1
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ (-)	1
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	

コネクタ図

付
録

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です

信号方向（1）：パソコン本体への入力

信号方向（0）：パソコン本体からの出力

4 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギーestarプログラムについて

当社は国際エネルギーestarプログラムの参加事業者として、
本製品が国際エネルギーestarプログラムの対象製品に関する基
準を満たしていると判断します。



参照 ➤ 省電力設定について 「2章 2」

FCC information

Product name : DynaBook G5 series

Model number : PS510

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's or external monitor port, USB port, IEEE1394 port, and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.

9740 Irvine Boulevard

Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PS510* conforms to the following Standards:

Supplementary Information : "The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC."

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives.
Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



認定番号
A00-0940JP

●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2002年4月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

付録

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353 11026A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in your modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

AT%TE=1

ATS133=1

AT&F

AT&W

AT%TE=0

ATZ

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC
Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
- c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

ATB0 (CCITT operation)

AT&G2 (1800 Hz guard tone)

AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)

ATS0=0 (not auto answer)

ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)

ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)

ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)

- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.

Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1

Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as FaxAbility.

NOTE THAT FAULT CALLOUTS CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

松下 CD-RW／DVD-ROM ドライブ UJDA730 (マルチドライブ)

安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

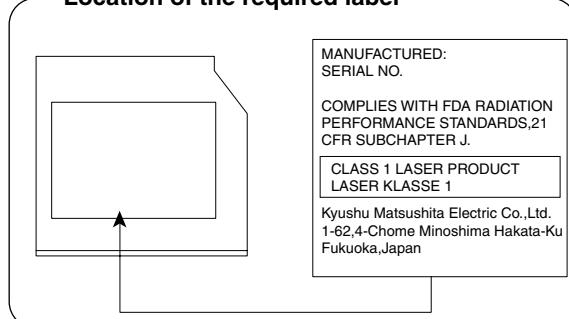
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通の
レーザ規格 EN60825 で
“クラス 1 レーザー機器” に
分類されています。
レーザー光を直接被爆する
ことを防ぐために、この装
置の筐体を開けないでくだ
さい。

2. 分解および改造をしないで
ください。感電の原因にな
ります。信頼性、安全性、
性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を
使用的するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害お
よび事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。
本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損
害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談
ください。

付
録

CAUTION	VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRÄHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÄR DEKSEL ÄPNES. UNNGÅ EKSPOSERING FOR STRÅLEN.
VARNING	SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

Location of the required label



MANUFACTURED:
SERIAL NO.

COMPLIES WITH FDA RADIATION
PERFORMANCE STANDARDS, 21
CFR SUBCHAPTER J.

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

Kyushu Matsushita Electric Co.,Ltd.
1-62,4-Chome Minoshima Hakata-Ku
Fukuoka,Japan

さくいん

記号

■キーを使ったショートカットキー ... 35

A

Alt キー 30, 31
Arrow Mode LED 31, 32

B

BackSpace キー 31
Battery LED 19

C

Caps Lock LED 30, 32
Caps Lock 英数キー 30
CD/DVD 再生アイコン 20
CD-ROM LED 19
CD の取り扱い 55
CRT ディスプレイ 149
CRT ディスプレイの接続 149
Ctrl キー 30, 31

D

DC IN LED 19
Del キー 31
Disk LED 19
Drag'n Drop CD 114
DVD-Video を観る 119
DVD の取り扱い 55

E

Enter キー 31
Esc キー 30

F

FDD LED 134
Fn キー 30

Fn キーを使った特殊機能キー 33

I

i.LINK インタフェース 186
i.LINK コネクタ 16
i.LINK 対応機器 150
i.LINK 対応機器の取り付け 151
i.LINK 対応機器の取りはずし 151
IEEE1394 インタフェース 186
IEEE1394 コネクタ 16
IEEE1394 対応機器 150
IEEE1394 対応機器の取り付け 151
IEEE1394 対応機器の取りはずし 151
Ins キー 31
InterVideo WinDVD 119

L

LAN インタフェース 189
LAN 機能 159
LAN ケーブルの接続 159
LAN コネクタ 16
LAN コネクタに関するインジケータ 160
LAN へ接続する 159
LINE IN 端子 16
LINE IN 端子への接続 158
LINE OUT 端子 16
LINE OUT 端子への接続 157
LIVE MEDIA PLAYER ... 100, 107

M

MotionDV STUDIO 128

N

Numeric Mode LED 31, 32

P

- Pause キー 31
 PC カードスロット 14
 PC カードの取り付け 141
 PC カードの取りはずし 141
 PC カードを接続する 140
 Power LED 19
 PrtSc キー 31

R

- RGB インタフェース 187
 RGB コネクタ 14

S

- SD Card LED 61
 SDMI 61
 SD メモリカード 61
 SD メモリカードスロット 14, 61
 SD メモリカードのセット 62
 SD メモリカードの取り扱い 64
 SD メモリカードの取り出し 62
 SD メモリカードのフォーマット 64
 Shift キー 30, 31
 Space キー 30

T

- Tab キー 30
 TFT 方式カラー液晶ディスプレイ 44

U

- USB インタフェース 188
 USB コネクタ 14, 16
 USB 対応機器の取り付け 143
 USB 対応機器の取りはずし 144
 USB 対応機器を接続する 143

W

- Windows Media Player .. 103, 110
 Win キー 30

ア

- アプリケーション一覧 180
 アプリケーションキー 31
 アプリケーション起動アイコン 20
 アプリケーションの削除 169
 アプリケーションの追加 168
 アンインストーラ 169
 アンインストール 169

イ

- イジェクトボタン (フロッピードィスクドライブ) 134
 インスタントセキュリティ機能 33
 インストール 168
 インターネットボタン 15
 インタフェース 132

ウ

- ウィンドウの色を変える 48

エ

- 液晶ディスプレイの取り扱い 49

オ

- オーディオ／アプリケーションボタン 15, 22, 101, 106, 120
 オーディオ／アプリケーションボタン ロック機能 23
 オーディオ／アプリケーションボタン ロック機能アイコン 20
 オーディオ機器 157
 オーディオ機器の接続 157

オーディオデジタル再生アイコン ..	20
オーバレイキー	31
オリジナル MD を作る	118
オリジナル音楽 CD を作る	114
音楽 CD を聴く	100
音楽ファイルを聴く	106

力

海外でインターネットに接続する ..	74
外形寸法図	182
回線切換器	74
解像度を変更する	47
書き込み可能状態 (SD メモリカード)	63
書き込み可能状態 (フロッピーディスク)	136
書き込み禁止状態 (SD メモリカード)	63
書き込み禁止状態 (フロッピーディスク)	136
書き込み保護 (スマートメディア)	59
各部の名前	14
カタカナ／ひらがなキー	31
壁紙を変える	46

キ

キーシフトインジケータ	32
キーフロッピーディスクの作成 ...	175
キーボード	14
キーボード図	30
キーボードの取り扱い	36
休止状態	92, 95

ク

クリック	38
------------	----

サ

サイドライト用 FL 管	49
サウンド機能	51

シ

システムインジケータ	15, 19
システム環境の変更	172
周辺機器について	132
使用できる CD	54
使用できる DVD	55
仕様について	18
省電力モードの削除	89
省電力モードの作成	89
シンクロ録音機能	154
新着メールチェック機能	65

ス

スクリーンセーバを使う	46
スタンバイ	91, 94
スピーカ	14
スマートメディア	57
スマートメディア LED	57
スマートメディアスロット	14, 57
スマートメディアのセット	58
スマートメディアの取り扱い	60
スマートメディアの取り出し	58
スマートメディアのフォーマット ..	60

セ

静電気について	163
赤外線ポート	14
セキュリティロック	77
セキュリティロック・スロット ..	14

ソ

増設メモリスロット	17
-----------------	----

増設メモリの取り付け	163
増設メモリの取りはずし	165

タ

タスクバーにCPU周波数の状態を 表示する	90
タスクバーに省電力モードの状態を 表示する	90
タッチパッド	14, 37
タッピング	38
ダブルクリック	38

ツ

通風孔	16
-----------	----

テ

ディザリング	44
ディスプレイ	14, 44
ディスプレイ開閉ラッチ	14
デジカメWalker	125
デジタルカメラの写真を編集する ..	125
デスクトップのテーマを変える ..	45
テレビを接続する	145
電源コードの取り扱い	18
電源コネクタ	16
電源スイッチ	14

ト

動画を編集する	128
東芝HWセットアップ	173
東芝コントロール	24
東芝省電力ユーティリティ	88
特殊機能キー	35
時計用バッテリ	83
ドライバをインストールする	133
ドラッグアンドドロップ	38

ナ

内蔵モデルについて	74
内蔵モデル用地域選択ユーティリティ	74

ハ

ハードウェアリソースについて ...	185
ハードディスクドライブ	50
パスワードの削除	175
パスワードの登録	174
パスワードを忘れてしまった場合 ..	176
パソコン本体の取り扱い.....	18
バッテリ残量アイコン	20, 81
バッテリ充電完了までの時間	84
バッテリ充電量が減少したとき	82
バッテリの充電量の確認	81
バッテリの充電方法	83
バッテリの充電保持時間	84
バッテリパック	17, 80
バッテリパックの交換	86
バッテリ・リリースラッチ	17
バッテリを使用できる時間	84
バッテリを節約する	85
バッテリを長持ちさせるには	85
パネルスイッチ機能	97
半／全キー	30

ヒ

光デジタルオーディオ出力端子	16
光デジタルオーディオ出力端子対応機器	152
光デジタル対応機器の取り付け ...	153
光デジタル対応機器の取りはずし	153
ピクセル	44

左ボタン	14
ビデオケーブルの取り付け	145
ビデオケーブルの取りはずし	148
ビデオ出力端子	16
ビデオモード	183

フ

ファンクションキー	30
プラグアンドプレイ	133
フロッピーディスクドライブ	134
フロッピーディスクドライブの取り扱い	139
フロッピーディスクの種類	135
フロッピーディスクの取り扱い	139
フロッピーディスクのフォーマット	136
分岐アダプタ	74

ヘ

ヘッドホン	156
ヘッドホン出力端子	16
ヘッドホンの接続	156
変換キー	31

ホ

ホットインサーション	140
ボリュームダイヤル	16, 51

マ

マイク入力端子	16
マイクロホン	155
マイクロホンの接続	155
マウスのプロパティ	37
マスター音量	51
マルチドライブ	16, 54

ミ

右ボタン	14
------	----

ム

無変換キー	30
-------	----

メ

メール着信情報を消す	72
メールボタン	15
メモリ容量の確認	166
メモリを増設する	162

モ

モード切替ボタン	15
モードパネル	15, 20
モードパネルに表示されるアイコン	20
モードパネルの設定	69
モードパネルの表示	21
モジュラージャック	16
モデムインターフェース	188

ヤ

矢印キー	31
------	----

ラ

ライトプロテクトエリア (スマートメディア)	59
ライトプロテクトタブ (SDメモリカード)	63
ライトプロテクトタブ (フロッピーディスク)	136

レ

冷陰極管	49
------	----

ワ

ワンタッチボタン	20, 22
----------	--------